

調査季報総目次・執筆者名索引

一号（一九六三年〈昭和三十三年〉十一月）

巻頭評論

市政と科学的調査

辻 清明

特集

1 横浜市の未来像―市民の立場を中心として

富田富士雄

2 都市計画技術よりみた横浜市の将来について

緒形 昭義

3 横浜市再開発についての基本的問題

高見玄一郎

4 国際港都「横浜」に寄せる

白根 雄偉

5 横浜市の工業化政策と都市問題―その解決のため

鳴海 正泰

行政研究

地方公営企業法改正に伴う問題点―公共下水道事業を中心として

小松原一男

資料紹介

地域における募金等の実態調査―町内会を通じる

菊池 庄蔵

大ロンドンの地方行政に関する王室委員会（一九五七―六〇）の報告書

小玉 重光

二号（一九六四年〈昭和三十三年〉二月）

巻頭評論

都市行政の内容と地方自治

井手 文雄

特集

1 社会福祉行政の比較分析

横濱市の教育行政

2 横濱市の道路と横濱市の水準

3 横濱市の清掃事業

4 横濱市の衛生行政

5 横濱市民と保健所

6 横濱市民の生活環境をめぐる諸問題

行政研究

横濱市農業の一断面

7 広域横濱市の問題点と一提案

資料紹介

市長への手紙から

能登 久喜

文献紹介

ロスアンゼルス市都市計画委員会の組織等

白居 昭三

三号（一九六四年〈昭和三十三年〉六月）

巻頭評論

転型期の自治体財政

遠藤 湘吉

特集

1 現代の青少年問題とその背景

横濱の勤労青少年

2 社会教育からみた青少年活動

3 転換期の青少年問題協議会と市行政

4 児童福祉行政の現実と対策

市民生活白書を批評する

5 初心忘るべからず

片手落ちな工業化の評価

とほしい具体的施策

強調されてよい戦災・接収の痛手

ほりさげてほしい地域組織の実態

自治体白書の先駆的役割を

行政研究

昭和三十九年度予算の基本的性格

横濱市における人事労務管理

自動車交通からみた横浜とその対策

新都市の計画（フック）（ロンドン州議会編）佐々

波秀彦・長峯晴夫共訳

四号（一九六四年〈昭和三十三年〉八月）

特集

1 だれでも住みたくなる都市づくり

横濱における都市づくりの考え方

2 横濱市の都市づくりの提案する

3 区画整理から都市づくりへ

4 宅地開発の現状と問題点

5 都市交通政策はいかにあるべきか

6 行政研究

自動車の集中管理とその実績

菅原 幸蔵

資料紹介

戸籍窓口と市民サービス

天野 義弘

米国主要都市下水道施設について

池田 一郎

根岸・本牧地域の公害対策についての提言

野口雄一郎・山本 幹夫

ミカエリリス・プレリーショー再開発事業最

終報告（一九六二年四月）

清水 喜治・桜井 日毅

五号（一九六四年〈昭和三十三年〉十一月）

巻頭評論

世界の都市 日本の都市

柴田 徳衛

特集

1 海外からみた横浜を考える

2 近代都市の条件

3 欧米の港をみて横濱港の将来を思う

4 欧米の港湾をみて

5 米国主要都市の土木施設について

6 欧米の清掃事業に学ぶ

7 欧州の都市開発をみる

行政研究

横濱市の財政へその現状と対策

資料紹介

横濱市における移動人口の実態

斎藤 正雄

六号（一九六五年〈昭和四十年〉二月）

巻頭評論

行政改革の方向

成田 頼明

特集

1 地方行政の改革と近代化

2 行政事務管理の近代化と能率化

3 窓口事務の実態と改革への提案

4 機械化と文書管理の新しい提案

5 研修制度のあり方について

6 事業執行はなぜおくれるか

7 お役所仕事を批判する（市長への手紙より）

行政研究

佐藤 雅亮

根岸・本牧工業地区における火力発電所立地にと
もなう公害問題の経過

助川 信彦・猿田 勝美

資料紹介

「子供を大切に市政」に提案するへ応募市政
論文・優秀作品 審査を終えて

川崎 万博

田島 公位

山田 久夫

秋谷 誠園

佐藤 雅亮

新書紹介
都市問題講座へ全六巻

七号 (一九六五年(昭和四十年)五月)

特集 宅地開発の現状と対策

1 宅地開発行政の基本的事項について 内藤 亮一

2 戦後横浜の宅地開発の経過と現状 高瀬 定雄・柴田 博

3 宅地造成関係法の運用とその方向 伊藤 功雄・長久保美昌

4 横浜における公的賃貸住宅と宅地開発 横塚 瀨

5 土地問題の所在と都市計画の方向 桑沢世竜一

6 宅地造成事業における企業性 水野 和昌

7 ベッドタウン化の諸問題 武田 英治

8 諸外国における宅地開発の手法 長野 尚友・白井 昭三・田中 祥夫

9 都市計画の能力を得るために 高井 芳

行政研究 横浜市の人口増加と給源地域の類型へその一

田添 京二・篠筈 憲爾

新書紹介 都市問題講座一―三巻

伊東 雅章

The Future of London (Edward Carter著)

佐藤 雅亮

八号 (一九六五年(昭和四十年)八月)

特集 戦後二十年―市行政の再検討

1 戦後二十年と大都市行政 鳴海 正泰

2 社会教育の根本問題 清水 嘉治

3 中小企業対策の再検討 確井 貢

4 青少年対策の新しい方向

5 都市農業の存立と農政の質的転換

6 補助金行政はどうあるべきか

7 社会福祉行政の現状と問題点

8 戦後横浜市政年表

行政研究 横浜市の人口増加と給源地域の類型へその二

田中 正司

石渡 貞雄

小玉 重光

松本久雅之介

調査室

田添 京二・篠筈 憲爾

新書紹介
都市づくりへ小森 武者

都市づくりへ小森 武者

都市問題講座五・六巻

高井 芳

佐藤 雅亮

九号 (一九六五年(昭和四十年)十一月)

巻頭評論

「都市づくり」はだれのために

「横浜の都市づくり」に提案する

1 横浜都市計画のためのノート 高井 芳

2 都市政策への提言・防衛から建設へ 石川 允

3 明日の横浜市づくりのために 白根 雄偉

4 横浜の都市づくり試論 早瀬 利雄

5 「横浜の都市づくり」を読んで 中村 實

6 都市づくりへの市民の発言 小此木彦三郎

行政研究 海外の交通事情について 伊藤 雅章

ヨーロッパ・アメリカの青少年問題印象記 村岡健一郎

植村 慶富

国庫補助事業における論理と超過負担の実態 梅崎 初夫

社会教育の根本問題について 田代 元弥

田代教授の批判にこたえる 清水 嘉治

資料紹介 大都市財政に即応する税制の確立について

小玉 重光

新書紹介 現代の地方政治(佐藤 竺著)

大都市の解剖(E・M・フーパー R・バーノン

共著)嶺山政道監訳 小玉 重光

一〇号 (一九六六年(昭和四十一年)二月)

特集 区役所問題

1 大都市の自治と区政 高木 鉦作

2 コミュニケーション回路の改革

3 人事の停滞を改めよ 海老原 毅

4 パーセント区政からの脱出 山本 清

5 区長の総合調整機能を強化せよ 中田 太郎

6 出先機関の統合と区長権限の拡大 諏訪部 周

7 建築的にみた区総合庁舎と窓口一本化河合 正一

行政研究 区民相談室のその後 能登 久禰

横浜市における区制の歴史(付・横浜区政年表)

募金集めと市民課 佐藤 雅亮

横浜における住宅金融公庫一般個人融資住宅の実

態調査とその分析―その一 小玉 重光

自治体改革の理論的展望(飛鳥田 一雄編著)

内藤 亮一

梅崎 初夫

一一号 (一九六六年(昭和四十一年)五月)

巻頭評論

「横浜文化論」の前書

「横浜文化論―新しい文化の創造は可能か

1 横浜文化論への三つのアプローチ 川添 登

2 幻影からの脱却―かつて横浜に文化はなかった

3 横浜におけるプロレタリア文化の系譜―文化創造

の不在の手たち 白土 秀次

4 まつりの衰退―横浜の民俗芸能の現状 斎藤 秀夫

5 されば横浜の日々よ―概観的横浜文化論 川口 謙二

6 アマチュア演劇と横浜文化―市民による文化活動

河西 稔

7 ハマは植民地である 加藤 衛

8 シウマイ文化と洋菓子文化 山田 長夫

9 分にすぎた背伸びを 田村 明

10 「支店文化」からの脱皮 山口考古磨

11 失われたものを求めて 吉田 辰男

12 よそ者のみた横浜文化論 渡部 允

13 壊すことと創ること 辻村 明

14 トータルビジョン! 山田 今次

15 ヨコハマとはなんだ 齋藤 昭義

齋藤 栄

16 都市文化の母体 野村 良政
行政研究
施設からみた文化度 高井 芳
横浜における住宅金融公庫一般個人融資住宅の実
態調査とその分析—その二— 内藤 亮一

新書紹介
マン・イン・メトロポリス(ヘルイス B・シユリ
ベック著) 小玉 重光
都市問題講座第七巻・都市計画 高井 芳

一二号(一九六六年(昭和四十二年)八月)
特集 首都圏と横浜
1 首都圏における横浜の位置 内井 昭藏・仙田 満
伊東 豊雄・安山 宣之
2 首都圏における人口増加のパターンとその地域的
特性 岸本 実
3 首都圏と横浜の都市計画 成田 宏
4 東京周辺地域の問題と問題意識 渡辺 精一
5 首都圏に関する統計資料 高井 芳 編
行政研究
ストックホルムの都市開発について 鈴木 和夫
スラム清掃—アメリカのスラム2著とドヤ街考— 芹沢 勇
海外の大気汚染対策 猿田 勝美・鳴海 正泰
新書紹介
現代日本の地域政治(横山桂次・大原光憲共著) 小玉 重光
日本列島の将来像(丹下健三著) 高井 芳

一三号(一九六七年(昭和四十二年)二月)
特集 新しい横浜の記録
1 都市づくりにおける戦略・戦術 飛鳥田一雄
2 ビッグビジネスの論理と都市問題 宮崎 義一
3 地域組織にみる新しい市民意識 横山 桂次
4 横浜の都市づくりと展望 井手 文雄
5 横浜の都市づくりを考える 早瀬 利雄
6 革新市政とはなにか 大崎平八郎
7 市政における政治の役割 今井 清一
8 市民こそ総合的都市計画の推進者 緒形 昭義
9 より着実な前進を 清水 嘉治

10 市民意識の展開と行政のリーダーシップ 河村十寸穂
11 市政聴診 穴戸 昌夫
12 月一度の市民意識 川村 仁也
13 子供を大切にすること—ということ— 宮島 肇

行政研究
根岸湾臨海工業地帯の造成と公害行政中村 紀一
横浜市における公共投資の財源問題 梅崎 初夫
郊外部新市民の二つの型 小玉 重光
児童公園の増設と問題点 調査 室
横浜市における住宅金融公庫一般個人融資住宅の
実態調査とその分析—追記— 内藤 亮一

新書紹介
都市化時代の日本経済(伊藤善市・坂本二郎共著) 佐藤 雅亮
都市化時代の日本経済(伊藤善市・坂本二郎共著) 佐藤 雅亮

一四号(一九六七年(昭和四十二年)六月)
特集 大都市圏の問題
1 ニューヨークの大都市圏計画 西尾 勝
2 大都市交通の根本問題 角本 良平
3 都市政策の反省と提案 坂本 二郎
4 都市化時代の衛星都市 伊藤 善市
5 首都圏に関する統計資料 調査 室
行政研究
横浜市政と市民の期待 田代 昌史
横浜の変貌と新住市民の自治意識 横山 桂次
横浜市をめぐる人口移動の地域的構造(一) 田添 京二・篠筈 憲爾
現行土地関係法における宅地の技術的要件 内藤 亮一

新書紹介
危機に立つ地方自治(W・A・ロブソン著/東京
市政調査会研究部訳) 佐藤 雅亮

一五号(一九六七年(昭和四十二年)六月)
特集 行政の再点検と提案
1 港湾機能の拡大と行政の新たな方向 山添 俊郎
2 都市化の進展と下水道行政 池田 一郎
3 コメント 計画の統一と施設の共同化 緒形 昭義
4 清掃行政の実態と提案 小泉富太郎

行政資料
横浜市の工業化進展に伴う公害災害の諸問題につ
いて—根岸・本牧工業地帯を中心として— 横浜都市科学研究グループ
野口雄一郎・緒形 昭義・山賀 岑朗
森口 実・桜井 毅

新書紹介
道路の経済学(高橋 清著) 佐藤 雅亮

一七号(一九六八年(昭和四十三年)二月)
行政資料
横浜市の工業化進展に伴う公害災害の諸問題につ
いて—根岸・本牧工業地帯を中心として— 横浜都市科学研究グループ
野口雄一郎・緒形 昭義・山賀 岑朗
森口 実・桜井 毅

コメント 清掃行政に対する意見と希望 森本 三男
4 貿易行政の進展 山田 勇
コメント 横浜貿易の問題点 長田 五郎
5 新段階を迎えた青少年行政 植村 慶富
コメント 青少年行政に望む 高橋 四郎

行政研究
横浜市をめぐる人口移動の地域的構造(二) 田添 京二・篠筈 憲爾
横浜の変貌と新住市民の自治意識 横山 桂次
横浜市の公害対策について 清水 嘉治

新書紹介
現代都市論(柴田徳衛著) 伊藤 雅亮

一六号(一九六七年(昭和四十二年)十一月)
特集 続 行政の再点検と提案
1 公園行政のあゆみと今後の課題 川口 弘
コメント 公園行政への期待と提案 田村 明
2 消費者行政の現状と将来 加藤 義一
コメント 消費者行政に新しいアイデアを相原 朝倉 光
3 転換期の道路行政 榎 次郎
コメント 道路行政のあい路 幸雄
4 市民の健康と衛生行政 時任 直人
コメント 衛生行政はこれでよいか 穴戸 昌夫
5 都市問題のなかの農業行政 徳植 末樹
コメント 都市農業のめざすもの 服部 一馬
6 教育行政のあり方の再検討 井上 高三
コメント 教育行政の硬直化に提言する 古田 光
行政研究
横浜の保育所問題 牧野 瑋・今井 洗夫
土地利用計画における宅地の技術的要件 内藤 亮一

行政資料
横浜市の工業化進展に伴う公害災害の諸問題につ
いて—根岸・本牧工業地帯を中心として— 横浜都市科学研究グループ
野口雄一郎・緒形 昭義・山賀 岑朗
森口 実・桜井 毅

新書紹介
道路の経済学(高橋 清著) 佐藤 雅亮

一七号(一九六八年(昭和四十三年)二月)
行政資料
横浜市の工業化進展に伴う公害災害の諸問題につ
いて—根岸・本牧工業地帯を中心として— 横浜都市科学研究グループ
野口雄一郎・緒形 昭義・山賀 岑朗
森口 実・桜井 毅

特集 公害対策―横浜方式

- 1 横浜の現況とその新しい展開 助川 信彦
- 2 大気汚染の現状 猿田 勝美
- 3 大気汚染の気象学 箕輪 年雄
- 4 大気汚染の植物に与える影響 前野 道雄
- 5 大気汚染と文化財 江本 義理
- 6 大気汚染の人体に及ぼす影響 渡部 光雄
- 7 臨海工業地帯の大気汚染対策 猿田 勝美

- 行政研究
- 市民相談からみた宅地造成の問題点 能登 久禰・広瀬 良一
- 都市計画よりみた公有水面の埋立事業 野村 良政
- 多摩田園都市問題協議会とその成果について 齋藤 栄
- 行政資料
- 横浜市宅地開発要綱 横 浜 市
- 東海道新貨物線計画に関する提言 清水 嘉治・広岡 治哉

新書紹介

- 社会資本論〈宮本憲一著〉 清水 嘉治

一八号 (一九六八年〈昭和四十三年〉八月)

特集 二〇〇万都市

- 1 首都圏への人口集中とドーナツ現象 征 幸雄
- 2 横浜市の人口問題 富田富士雄
- 3 横浜市の人口推移とそのパターン 森田 文行
- 4 人口急増にもなう市民の変化 山口 辰男
- 5 横浜の成長過程と都市問題 岩崎 重男

- 行政研究
- 欧米における港湾労働者の雇用形態 高見玄一郎
- 横浜市における副都心の開発 野村 良政
- 地方財政の危機と財源配分問題 梅崎 初夫
- 行政資料
- 指定都市事務局 齋藤 正雄
- 大都市財政の実態 新 斎藤 正雄
- 新しい統計表・センサストラクト 根本 和夫
- 新書紹介
- 日本都市論〈上田篤著〉

一九号 (一九六八年〈昭和四十三年〉十月)

特集 郊外部開発の諸問題

- 1 郊外宅地開発の基本方向 田村 明
- 2 港北ニュータウンの基礎理念と実際 鳥井 陸八
- 3 大都市近郊農業の保全と農業経営の方向 神戸 正

- 4 開発と治水問題 佐藤 昌之
- 5 人口の急増と義務教育施設 寺門 敏雄
- 6 開発と埋蔵文化財 岡本 勇

新書紹介

- 新しい都市理論〈L・ライスマン著／星野郁美訳〉 伊藤 雅章

二〇号 (一九六八年〈昭和四十三年〉十二月)

特集 転換期の福祉行政

- 1 新しい社会福祉行政 小山 路男
- 2 乳幼児保健対策の新しい方向 田村 元
- 3 老人問題とその対策 石渡 金吾
- 4 婦人労働と児童問題 伊東 優
- 5 精神薄弱福祉の現状と問題点 朝倉 陸夫
- 6 寿ドヤ街の福祉対策について 谷川 弘・田中 俊男
- 7 福祉事務所をめぐる諸問題 松本久雅之介

- 行政研究
- 結合による新しい試み 中村 賢二
- 新しい首都圏整備の方向 雨宮 利次
- 行政資料
- 大都市財政の実態に即応する財源の拡充について 六 大 市 市 長 ・ 市 議 会 議 長
- 多摩ニュータウンについて 東京問題調査会 横 浜 市
- 昭和四十四年度予算編成方針 横 浜 市
- 新書紹介
- 変動する大都市〈J・ゴットマン、R・ハーバー編／飛鳥田一雄ほか訳〉 小玉 重光

二二号 (一九六九年〈昭和四十四年〉三月)

特集 市民の安全

- 1 都市計画からみた市民の安全対策 村上 處直
- 2 横浜市における地域防災計画の現状と将来 横 浜 市

二三号 (一九六九年〈昭和四十四年〉十一月)

特集 都市化と老人問題

- 1 老人問題の現状 磯村 光男
- 2 都市化と老人人口 黒田 俊夫
- 3 老人の就職問題 村田 一夫
- 4 老人の新しいレクリエーション 平井 省三
- 5 老人ホームの課題 西野 要
- 6 老人ホールの実態 河野 亮永
- 7 寝たきり老人の課題 中村 八朗

- 行政資料
- 英国における地域開発政策の性格 野村 良政
- 都市の時代〈榎並公雄著〉 清水 嘉治
- 新書紹介
- 放射能汚染と市民の安全 高橋 孝二
- 横浜市の交通事故とその対策 猿田 勝美
- 都市化と市民の健康 川久保 正
- 都市化と犯罪 六郷 政寛
- 行政資料
- 都市化と犯罪 早瀬 利雄
- 市町村と国家 ロジエ・オーバン・編
- 新書紹介
- 危機に立つ都市交通〈日本都市交通労働組合連合会長期政策委員会編〉 佐藤 雅亮

二四号 (一九六九年〈昭和四十四年〉八月)

特集 都市と緑

- 1 これからの都市計画と緑 河合 正一
- 2 首都圏広域緑地計画の意義 田辺 昇学
- 3 横浜市における公園・緑地と今後の課題 湖上 和彦
- 4 公園行政の現状と問題点 山田 栄雄
- 5 横浜の緑化対策 山口 忠正
- 6 近郊農地の計画的保全 小沢 恵一
- 7 都市再開発とオープン・スペース 内藤 惇之

- 行政研究
- 横浜市における幹線道路の整備促進について 野村 良政

二五号 (一九六九年〈昭和四十四年〉十一月)

特集 都市化と老人問題

- 1 老人問題の現状 磯村 光男
- 2 都市化と老人人口 黒田 俊夫
- 3 老人の就職問題 村田 一夫
- 4 老人の新しいレクリエーション 平井 省三
- 5 老人ホームの課題 西野 要
- 6 老人ホールの実態 河野 亮永
- 7 寝たきり老人の課題 中村 八朗

- 行政資料
- 横浜市における地域防災計画の現状と将来 横 浜 市
- 大都市交通問題にかんする提言 蔵園 進・広岡 治哉
- 大都市交通問題研究会

緒形 昭義・梶 幸雄
昭和四十五年度予算編成方針
都市問題関係誌目録
澤西 義博
新書紹介
環境開発論(浅田 孝著)
内藤 惇之

二四号 (一九七〇年(昭和四十五年)一月)
特集 基地と市民運動
1 都市と基地 飛鳥田一雄・潮見 俊隆
2 横浜の基地撤廃運動 渡部 允
3 電波障害とたたかう農民たち 中尾 安治
4 瀬谷基地における法律的問題点と鑑定書について 山本 博
5 二つの基地返還問題
6 根岸競馬場の返還運動 門倉 政秋
7 根岸競馬場返還と市民運動 松永 靖彦
行政研究 深山 泰治

行政研究
7 根岸競馬場返還と市民運動 深山 泰治
6 根岸競馬場の返還運動 門倉 政秋
5 二つの基地返還問題 山本 博
4 瀬谷基地における法律的問題点と鑑定書について 中尾 安治
3 電波障害とたたかう農民たち 渡部 允
2 横浜の基地撤廃運動 飛鳥田一雄・潮見 俊隆
1 都市と基地 飛鳥田一雄・潮見 俊隆

新書紹介
アメリカ大都市の死と生(ヘン・ジェコプス著/黒田中 昭一)
川紀章訳
野村 良政
田村健一郎
落合 博
野村 良政
田村健一郎
落合 博

二五号 (一九七〇年(昭和四十五年)三月)
まえがき
特集 京浜工業地帯
1 日本の工業立地 伊藤 雅章
2 首都圏の土地利用 山本 正雄
3 成立期の京浜工業地帯 石川 允
4 労働者の立場から見た京浜工業地帯 服部 一馬
5 労働者の立場から見た京浜工業地帯 清水 嘉治
6 京浜工業地帯の将来 齋藤 秀夫
7 京浜工業地帯に関するアンケート 前田 清
都市開発による問題解決 飯島 貞一
住民の力で企業と対決 石川 重石
必要な地域社会と企業の調整 岩間 昭彦
国家的観点からの把握を 遠藤 幸男
都市権限の強化を望む 小幡 忠明
巨視的には移転が得策 石原 舜介
加工度の高い工業への転換

新書紹介
地方自治の理論と構造(星野光男著) 松本 得三
武藤 暢夫・森口 実

二六号 (一九七〇年(昭和四十五年)六月)
特集 余暇とその環境
1 余暇の今日的意義 松下 圭一
2 遊びの構造 田村 明
3 労働者と余暇問題 板東 慧
4 自然遊歩道の計画と意味 鈴木 忠義
5 都市の自然とレクリエーションスペース 鈴木 忠義
6 斜面緑地論 田辺 貞寿
7 市民とレクリエーション 仙田 満
行政研究 パーソントリップ調査からみたレジャー・レクリエーションの構造 安永 和夫
新書紹介 個性あるレジャー(藤竹 暁著) 根本 和夫

新書紹介
東京湾を生かした新しい土地利用 門田 正三
避けるべきは住工混在 杉本 和三
生活環境の整備をねがう 関谷 英治
スクラップ・アンド・ビルドと人間の重視 鈴木 哲男
都市と企業との共存共栄 東京瓦斯企画室
臨海部の立体化と埋立が必要 根津 栄一
総合的施策による調和を期待 伏木 和雄
市政は新しい長期展望を持って 長洲 一二
人間尊重がすべてに優先 宮崎 省吾
大きな事故が心配 柳下タツ子
健全な発展を期待 横浜高島屋企画室
放置すれば老朽化から内部分解へ 吉岡 陽子
卓越した技術革新がカギ 吉川 徳夫
可能なかぎり埋立よ 李家 孝

既設工業地域の公害対策に関する提言
横浜市既設工業地域公害対策調査会
横濱市 大森 薫・緒形 昭義・栗原 操
小林 義隆・高橋輝一郎・田中 武
武藤 暢夫・森口 実

二七号 (一九七一年(昭和四十五年)十一月)
特集 都市廃棄物
1 環境破壊と生命の原理 宮腰 繁樹
2 廃棄物処理処分の諸問題 宮之原 隆
3 水質汚濁と環境基準 佐藤 昌之
4 港湾汚染と沈没船 江口 昭悟
5 公害問題としての廃棄物 猿田 勝美
6 エネルギーと廃棄物 平野 豊策
行政研究 横浜市都市廃棄物研究会の経過 三木 馨
幹線道路の自動車公害防止についての試論 野村 良政
行政資料 昭和四十四年度地盤沈下調査結果の概況ならびに四十五年度調査事業計画について 横濱市 田村 明
新書紹介 日本鋼管扇島移転の公害防止 池田 武文
苦海浄土(石牟礼道子著)

二八号 (一九七一年(昭和四十六年)三月)
特集 六大事業の経過と今後の方向
1 六大事業の基本理念 宮腰 繁樹
2 地下鉄建設の計画と実際 安藤 栄
3 港北ニュータウン 林 太郎
4 ニュータウンの形成 井上 三男
5 農専地区の形成 池沢 利明
6 高速道路のネットワーク 西脇 巖
7 ベイブリッジ計画 入江 昭明
8 都市部再開発 寺内 孝
9 三重工移転と跡地の利用 野地 博
10 横浜駅西口の再開発 寺内 孝
11 都市部のなかの緑の軸線 三木 馨
12 中小工場移転跡の土地利用計画 猪狩 劍正
13 金沢地先埋立事業 村上 武
行政研究 東西ヨーロッパの公害視察の印象 助川 信彦
行政資料 日本鋼管株式会社京浜製鉄所に関する公害防止協定の締結について 神奈川県・横濱市・川崎市・日本鋼管株式会社

新書紹介
横浜市既設工業地域公害対策調査会
横濱市 大森 薫・緒形 昭義・栗原 操
小林 義隆・高橋輝一郎・田中 武
武藤 暢夫・森口 実

新書紹介
地方自治の理論と構造(星野光男著) 松本 得三
武藤 暢夫・森口 実

新書紹介
個性あるレジャー(藤竹 暁著) 根本 和夫

新書紹介
東京湾を生かした新しい土地利用 門田 正三
避けるべきは住工混在 杉本 和三
生活環境の整備をねがう 関谷 英治
スクラップ・アンド・ビルドと人間の重視 鈴木 哲男
都市と企業との共存共栄 東京瓦斯企画室
臨海部の立体化と埋立が必要 根津 栄一
総合的施策による調和を期待 伏木 和雄
市政は新しい長期展望を持って 長洲 一二
人間尊重がすべてに優先 宮崎 省吾
大きな事故が心配 柳下タツ子
健全な発展を期待 横浜高島屋企画室
放置すれば老朽化から内部分解へ 吉岡 陽子
卓越した技術革新がカギ 吉川 徳夫
可能なかぎり埋立よ 李家 孝

既設工業地域の公害対策に関する提言
横浜市既設工業地域公害対策調査会
横濱市 大森 薫・緒形 昭義・栗原 操
小林 義隆・高橋輝一郎・田中 武
武藤 暢夫・森口 実

新書紹介
地方自治の理論と構造(星野光男著) 松本 得三
武藤 暢夫・森口 実

新書紹介
個性あるレジャー(藤竹 暁著) 根本 和夫

新書紹介
東京湾を生かした新しい土地利用 門田 正三
避けるべきは住工混在 杉本 和三
生活環境の整備をねがう 関谷 英治
スクラップ・アンド・ビルドと人間の重視 鈴木 哲男
都市と企業との共存共栄 東京瓦斯企画室
臨海部の立体化と埋立が必要 根津 栄一
総合的施策による調和を期待 伏木 和雄
市政は新しい長期展望を持って 長洲 一二
人間尊重がすべてに優先 宮崎 省吾
大きな事故が心配 柳下タツ子
健全な発展を期待 横浜高島屋企画室
放置すれば老朽化から内部分解へ 吉岡 陽子
卓越した技術革新がカギ 吉川 徳夫
可能なかぎり埋立よ 李家 孝

二九号 (一九七一年(昭和四十六年)三月)

特集 新市民と自治

- 1 「横浜と私」を読んで
大堀 末雄
- 2 「市民生活白書」と私
渡辺 俊輔
- 3 中小企業団地に移って
小幡 勝也
- 4 人口増がたいへん魅力
啓子 啓子
- 5 コミュニケーションの場をつくれ
高島 みち
- 6 真市民になれるのはいつ?
荒井由紀子
- 7 とくに要望も満足感もなく
小原恵美子
- 8 0歳児の保育施設を
生井 俊重
- 9 『異市民が求めるもの』
外林 大作
- 10 住人と市民
地域社会における諸問題と婦人の役割
原 芳男・佐枝 三郎
- 11 おかめ八目・横浜市民の皆さんに
浪江 虔
- 12 左近山団地におけるコミュニティづくり
筒井 安忠
- 13 団地における自治会活動の実態
宮本 功
- 14 新市民自治組織にみられる行政への新しい対応
佐藤 俊一

行政研究
新市民への行政サービス
緑区新市民の市政参加への道

- 田子 幹夫
平井 義男

三〇号 (一九七一年(昭和四十六年)六月)

特集 水資源と水行政

- 1 水資源問題を考える
松本 得三・岡村 駿
- 2 横浜市の水道事業の現状と計画
神林 智博
- 3 公営企業としての水道事業
梅田 兼光
- 4 広域水道行政と地方自治
金田 康二
- 5 六大都市水道事業の比較
経営面からの比較
田中 徳明
- 6 施設面からの比較
行政研究
中村 高也

水資源に関する法制度の沿革
春田 因典
住民組織への提案(自治会・町内会実態調査から)
佐久間健生

行政資料
水資源関係参考資料
都市科学研究室
調査季報録目次

三一号 (一九七一年(昭和四十六年)九月)

特集 住宅問題の諸側面

- 1 サラリーマンにとつて土地・住宅とは何か
蒲池 紀生
- 2 都市問題と土地法の原理
篠塚 昭次
- 3 東京圏の住宅事情
三宅 醇
- 4 横浜市における住宅政策の変遷
内藤 惇之
- 5 民間企業による都市開発と自治体・その一(東急多摩田園都市の場合)
入江 昭明・松本 得三・岡村 駿
- 6 横浜市宅地開発要綱(その問題点と今後の方向について)
広瀬 良一

行政研究
日照権陳情と市民相談室
岩間 忠雄
「ある重婚例」に関する一考察
河原 英夫
経済・社会開発の促進者としての地方団体の役割
IULATロント会議に出席して
鎌田 要人

新書紹介
市民都市論(宮崎辰雄著)
春田 因典

三二号 (一九七一年(昭和四十六年)十二月)

特集 自動車化と道路・交通問題

- 1 疑問の効用(交通対策へのひとつの提言)
岡 並木
- 2 都市交通と生活道路
高橋 敏美
- 3 都市交通の現状と道路計画
長島 熱夫
- 4 道路公害と住民生活
中村 紀一
- 5 公共交通の諸問題
佐藤 孝昭・佐藤 久
鶴岡 晏夫・杉山 明英
伊藤 洲三・山内 章稔
- 6 大都市交通体系の確立と展望
蔵園 進

行政研究
道路行政の末端から
遠藤 輝雄・加藤 正美・金近 忠彦
鎌田 親人・日野 孝美・平野 俊雄
堀込 啓子

民間企業による都市開発と自治体・その二(東急多摩田園都市の場合)
入江 昭明・松本 得三・岡村 駿

行政資料

「横浜市における都市廃棄物の実態調査」について
三木 馨

三三号 (一九七二年(昭和四十七年)三月)

巻頭論文

「調査季報」十年目を迎えて
田村 明

特集 都市環境と生物指標

- 1 環境危機と「横浜方式」(昭和五十年代に対処する道)
助川 信彦
- 2 地球の規模における人間環境問題の概観
猿田 勝美
- 3 環境創造への質と量
岩田 幸基
- 4 荒廃した環境・安中からの呼びかけ(土地問題と土壌汚染)
高柳 孝行
- 5 大気汚染と植物群落
前野 道雄
- 6 水域・水質とその生物相
金子 光美
- 7 通信機工場における公害対策の一事例
室岡 秀保
- 8 汚染地域における住民とその意識(鶴見区住民の「公害意識調査」から)
岡村 駿
- 9 公害の原点をたずねて(足尾・水俣・ビキニ)
仲井 富

行政研究

民間企業による都市開発と自治体・その三(東急多摩田園都市の場合)
都市科学研究室

行政資料
高速道路建設に伴う公害対策について(中間答申)
横浜市公害対策審議会
長野 尚友

土地開発分担金法について
新書紹介
市民参加(松下圭一編)
佐久間健生

三四号 (一九七二年(昭和四十七年)六月)

特集 都市化と財政

- 1 都市化と財政
事業執行と予算配分
吉沢高一郎

② 座談会 小玉 重光・佐久間健生

成川 登・長谷川久男
吉沢高一郎・和田 瑞男
水島 敏彦・岡村 駿

2 計画と財政 横浜市財政の現状と問題点
岡本 坦

① 横浜市財政の現状 岡本 坦

③ 財政構造上の問題点 岡部 重之
④ 資金調達の現状と問題点 小島 雅雄
⑤ 財政収入の市民的健康性 馬場 貞夫
早瀬 利雄

行政研究 横浜市における用地問題 財政問題研究会
岩田任史良・大木 秀夫
川股 隆・水島 敏彦

宅地開発と私権の制限 田村 明
湾岸道路計画と本牧港湾住宅団地計画の調整にあ
たつて 金近 忠彦
住所即本籍について 古池谷 泉

新書紹介 地方自治の政治学（井出嘉憲著） 岡村 駿

三五号（一九七二年（昭和四十七年）九月）
特集 住民と「知る権利」
1 「知る権利」の享有主体としての住民奥平 康弘
2 「秘密」とは何か 原田 清司
3 地方公務員法第三十四条の「秘密」とは何か 紀内 隆宏
4 「知る権利」と市民参加 中村 紀一
5 得手勝手な秘密主義―それとの長期戦を 浪江 虔

行政資料 「東京都秘密文書及び取扱ひ注意文書処理基準」
について 山尾 清種

行政研究 自治体と情報公開 横浜市行政法研究会
里山 隆志・古川 邦雄
上田 英雄・大山 浩朗
矢島 真・青木 茂夫
宮川 勝明

生物指標論（上） 四竈 安正
区役所事務と外国人 河原 英夫
新都市基盤整備事業と土地区画整理事業の今後の
ゆくえ 久保田 博

新書紹介 現代の行政と行政法の理論（今村成和著） 古川 邦雄

三六号（一九七二年（昭和四十七年）十二月）
特集 住民の要求と行政の対応―都市科学研究室の
調査から―

1 ふたつの調査について 都市科学研究室
2 A調査から―「市長への手紙」を中心に 都市科学研究室
3 住民と役所との間柄―個別事例から 都市科学研究室
4 B調査から―白幡地区の生活環境を中心に 都市科学研究室

5 足洗川沿岸の住民―個別調査 泉 久美子
6 白幡西町の住民―個別調査 岡村 駿
7 白幡地区とは 佐久間健生

行政研究 調査結果について―市民意識研究会の討論から―
市民意識研究会
大沢 浩・加賀屋正彦
糸川 俊一・小林 一男
佐久間健生・田中 昭一
平井 義男 宮川 勝明
松本 得三・春田 園典
岡村 駿・泉 久美子
小林 一男

新書紹介 「足洗川沿岸の住民」を読んで 小林 一男
住民のための地方自治―その実験と展開（宮元義
雄著） 春田 園典

三七号（一九七三年（昭和四十八年）三月）
特集 地方公務員と職業倫理―人事行政の前提を考
える―

1 公務員の気質―アポロ型人間 足立 忠夫
2 地方公務員の志気 和田 瑞男
3 行政効率と行政効果―市民からみた地方公務員

4 新しい行政への模索 加藤 一明
5 ある行政改革の記録 中村 陽一
6 人事委員会の機能と問題点 大下 寿一
宮本英三郎

行政研究 人事行政の基本原則を求めて―地方公務員法を
めぐる諸問題 長沢 徹郎
地方公務員法・地方自治法の変遷表 横浜市行政法研究会

行政資料 外国諸都市の人事の問題 泉 久美子
人事行政関係参考文献―国会図書館の「人事行
政」・「行政組織」件名目録から 泉 久美子

新書紹介 都市変革の思想と方法（鳴海正泰著） 大沢 浩

三八号（一九七三年（昭和四十八年）六月）
特集 住工混合地域の環境整備―「計画」の前提を考
える―

1 住工混合地域環境再整備計画序論 川名吉工門
2 住工混合の問題点と都市政策のあり方―大阪市東
部・東大阪市の調査から 三村 浩史
3 神戸市かるも地区の場合 神戸市かるも地区の接点―ルポルターージュかるも― 宮西 悠司・合田 康代
4 神戸市役所の計画―真野地区再開発構想の背景 岡本 好右

行政研究 東京都大田区糀谷地区・荒川区荒川地区の場合 浅川 敏克・井沢 信臣
横浜市の場合―住宅事情と生活環境の調査から 岡村 駿・地曳 良夫

行政資料 イギリスにおける地域開発と都市政策問題に關す
るノート 清水 嘉治
外国諸都市の人事の問題 前野 良

新書紹介

現代都市政策Ⅳ・都市の経営（伊東光晴・篠原一・松下圭一・宮本憲一編集） 水島 敏彦

三九号（一九七三年（昭和四十八年）九月）
特集 大都市における地域行政―区役所のあり方を中心に―

- 1 町づくりと区役所の役割―戸塚駅周辺再開発の場合 中野 嘉一
- 2 社会教育と地域づくり―神奈川県のある体験 田中 昭一
- 3 住民参加と区政―緑区の住民集会から平井 義男
- 4 住民による集会施設づくりの問題―中区のある地区センター計画に考える 仲田 五郎
- 5 住民自治と地域行政 佐久間健生
- 6 区政充実の方向 添田清二郎
- 7 大都市における行政区のあり方 黒沼 稔

行政研究

窓口事務をめぐる諸問題―ある問いかけ 河原 英夫
横浜市民の生活行動―パーソン・トリップ調査の解析から 加藤 俊道・長島 熱夫

行政資料

諸外国における地方制度―ロンドン・リヨンを中心に 矢部 勝彦

新書紹介

住民自治の権利（高木鉦作編） 岡村 駿

四〇号（一九七三年（昭和四十八年）十二月）
特集 大地震の対策と不安

- 1 大地震は必ず来る 力武 常次
- 2 都市災害と車 安倍 北夫
- 3 横浜市地震対策への発言 内山 陸雄
- 4 市民からみた不安 村上 處直
- 5 研究者からみた不安 独古 哲世
- 6 横浜市の地震対策の諸問題 高橋 孝二
- 7 地震対策の現段階と問題点 宮脇 克己
- 8 都市防災と道路の役割―主に大震火災時の避難路対策として 田代 善雄
- 9 防災都市づくりを考える

行政研究

密集市街地の地震火災に関する相対的危険度判定とその考察 宮脇 克己

外国の防災と市民組織―スイスを中心に 独古 哲世

新書紹介

関東大震災（吉村 昭著） 池田 武文

四一号（一九七四年（昭和四十九年）三月）
特集 都市と精神の問題

- 1 都市構造と生活空間―精神衛生的な考え方 竹山 恒寿
- 2 心と健康 新福 尚武
- 3 精神疾患の変遷 猪瀬 正
- 4 老人の精神衛生 長谷川和夫
- 5 精神疾患の医療 上村安一郎
- 6 大都市行政のなかの精神衛生―その法制、実態と問題点 萩原 一郎
- 7 都市における精神衛生―過密都市の諸問題 石原 幸夫

行政研究

欧州の老人、医療、公害対策について岩本 正夫
他都市の調査・研究機関の活動―大阪市・仙台市・川崎市の場合 中川久美子

行政資料

横浜市土地開発公社（直営）路外駐車場の新設、開業に当って―そのプレテスト的役割 鳥井 陸八

新書紹介

横浜市職員の住所分布傾向―行政と地域の結びつきを考える基礎資料として 杉浦 孝
都市病理学（大橋 薫・大藪寿一編）田口三枝子
市民参加と地域政治（ヘイリス・M・ヒル著）横山桂次・吉塚 徹訳 前野 良

四二号（一九七四年（昭和四十九年）六月）
特集 都市エネルギーの諸問題

- 1 都市の熱エネルギー問題と公害対策―市民討議集会仮想録音から 助川 信彦
- 2 環境エネルギー論的に見た都市の一断面

3 都市エネルギー問題への経済学的接近 木村 宏

4 エネルギー危機をどう考えるか 中村 孝俊

5 新エネルギー技術開発の現状と問題点 宮脇 繁樹

6 液化天然ガスの有効利用をめぐる 安藤 昌夫

7 都市廃棄物とエネルギー問題 片岡 宏文

8 都市農業に対する清掃工場余熱利用の問題 齊田 倉作

行政研究 小沢 恵一

横浜市旭清掃工場余熱利用施設について 三木 馨

鉄道車輛騒音とその防止について 松井 信夫

新書紹介 国際交通シンポジウム「人間と交通」そのすべて 長谷川雅彦

（朝日新聞社）

四三号（一九七四年（昭和四十九年）九月）
特集 出稼ぎ労働の問題点

1 出稼ぎはねぐらならぬ―出稼ぎ取材班からの報告 清水 彰

2 農業政策の破綻と出稼ぎ 林 信彰

3 ある村の出稼ぎ年表―秋田県十文字町M地区の場合 佐藤 正

4 残された家族とその生活―秋田県大森町の場合 高橋 重一

5 都市における出稼ぎ労働の実態 益田 明美

行政研究 ① 東京の場合 中村 丈夫

② 横浜の場合 都市再開発の基本方向をさぐる―横浜市市街地再開発基本調査から 岸田比呂志

新書紹介 日本人とすまい（上田 篤著） 反町 良雄
砂川 忠雄

四四号（一九七四年（昭和四十九年）十二月）
特集 消費者と物価
1 家計簿運動からの報告 中村喜美子
2 インフレは克服できるか 清水 嘉治

- 3 生産者・消費者・独禁法 大門 一樹
 4 消費者運動―歴史と展望 紀平 梯子
 5 地方自治体の消費者行政―横浜市の行政を中心に 平野 守之

行政資料
 横浜市民生活関連物資緊急対策本部の活動経過 富田日出男
 中国の都市計画 長野 尚友・沢野 守之

行政研究
 横浜市環境事業小史(上)―ごみ、し尿処理史 上村 信義
 新書紹介
 茶館(竹内 実著) 仲田 五郎

四五号 (一九七五年(昭和五十年)三月)
特集 「福祉」問題再考
 はじめに 「福祉」のはん蓋する中で
 1 市民生活と社会福祉政策―市民階層の文化との関連で 市瀬 幸平
 2 求められる福祉行政の理念 阿部 志郎
 3 自治体と福祉行政―重症心身障害児施設をめぐって 福祉問題研究会
 4 現場から見た福祉―ケースワーカーの記録から 福祉問題研究会
 5 福祉労働に関する一考察 福祉問題研究会

行政資料
 横浜市総合福祉行政調査研究報告書 総合福祉行政調査研究委員会
 富田富士雄・瓜巢 憲三
 阿部 志郎・藤村 哲

行政研究
 横浜市環境事業小史(下)―ごみ・し尿処理史 上村 信義
 書評特集
 「私の横浜」市民生活白書 昭和五十年 義也
 市民生活をリアルに把握 副田 浩
 残念な行政への遠慮 大沢 浩

「外套」と白書 田口三枝子
 福祉・福祉というけれど 本多 常高
 もっと現場の声を 佐々木裕子・小泉 善信
 市民は単なる住民ではない 田代 善雄
 「私の横浜」がない 舟田鶴津子
 私自身の痛みとしての「白書」 田中 昭一
 参加に過大な期待は疑問 佐々木寛志

四六号 (一九七五年(昭和五十年)六月)
特集 都市と家族の問題
 1 家族とは何か―その存在の今日的意義について 山室 周平
 2 家族のきずなの変化―臨床社会心理の立場からの考察 岡堂 哲雄
 3 婦人の就労化と家族問題 神田 道子
 4 低所得層の家族 籠山 京
 5 家庭裁判所に見る崩壊家庭 新田 慶
 6 老人と家族 中根 愛治

行政研究
 主婦の家族―世帯構成とそれの暮らし 齊藤 淳一
 主婦と地域活動―個別事例調査から 中川久美子
 新書紹介
 居室老人の生活と親族網(Ｐ・タウンゼント著) 岡部 重之
 山室周平監訳)

四七号 (一九七五年(昭和五十年)九月)
特集 アーバンデザインの問題
 1 アーバンデザインと自治体 田村 明
 2 アーバンデザインとは何か 岩崎 駿介
 3 都市部強化事業におけるアーバンデザイン 高橋 正宏
 4 郊外地域の環境整備方法 清水 惇之
 5 アーバンデザインと法制度 内藤 久雄
 6 海外におけるアーバンデザイン 長島 考一
 7 日本の都市計画の歩みとアーバンデザイン 川名吉工門
 8 「わたしの都市」というかんがえ 長田 弘

行政研究
 国内諸都市のアーバンデザインへの試み 国吉 直行
 ルイス・マンフォードの全体像―略歴にみる試論

読書案内
 アーバンデザイン関係の文献 三木 馨
 新書紹介
 都市と保存―保存の経済学上・下(都市住宅編集 部編) 青木 虹二
 都市財政を考える(山本正雄著) 高橋 敏美
 政学(高寄昇三著) 尾沢 詳憲

四八号 (一九七五年(昭和五十年)十二月)
特集 地方財政危機をめぐって
 1 低成長経済下の地方財政 一杉 哲也
 2 (座談会) 地方財政危機打開の方向 山本 正雄
 3 地方財政危機と横浜市財政 岸本 重陳・小島 雅雄
 4 超過負担と機関委任事務 船橋 成幸
 5 地方版にみる地方財政クロナクル 小島 雅雄
 守屋 太郎

行政研究
 超過負担の考え方と問題点 金山 彰
 ニューヨーク市財政危機とアメリカの都市問題 佐々木寛志
 言葉と自治体―私達は信頼されているか 松本 得三・砂川 忠雄・大山 浩朗
 横浜市のメッシュデータの現状と今後の課題 松井 重利・稲葉 啓三
 反町 良雄・鳥居 盛男
 高橋 敏美

行政資料
 モスクワとレーニングラードの道路名称の由来 (抄訳) 高橋 敏美
 読書案内
 地方財政関係の文献 青木 虹二
 新書紹介
 環境破壊と社会的費用(Ｋ・Ｗ・カップ著) 柴田 徳衛・鈴木正俊訳 中島 弘善
 市政日誌 昭和五十年八月―昭和五十年十月

四九号 (一九七六年(昭和五十一年)三月)
特集 区民生活と行政の対応―緑区の調査事例を中心

に
緑区民生活調査について

緑区民生活調査 作業班
平井 義男・久保田 正巳・高野 年弘
榎 千恵子・野村 功・須田 幸隆
中田 昭彦・藤川 文彦・佐久間 健生
佐々木 寛志・北小路 清・仲田 五郎
岡村 駿 ・以下同じ

1 緑区民の生活と地域社会―緑区A調査結果を中心
に
緑区民生活調査 作業班

2 住民の要求と行政の対応―緑区B調査結果を中心
に
緑区民生活調査 作業班

3 区・市役所のあり方をめぐって
緑区民生活調査 作業班

① 区へ地域におけるサービスタウンに向けて
緑区民生活調査 作業班

② 座談会―作業班の討論から
緑区民生活調査 作業班

4 行政権限の分散と住民参加―行政区のあり方を考
える
横山 桂次

行政研究
区民生活の側面―緑区生活保護受給世帯より
須田 幸隆

指定都市の区役所について―横浜市の現状と関連
させて
藤川 文彦

読書案内
緑区の前身 都筑郡のころ
青木 虹二

市政日誌
昭和五十年十一月―昭和五十一年一月
新書紹介
行政と平均的市民（足立忠夫著）川上 勝巳

五〇号（一九七六年（昭和五十一年）六月）
特集 都市行政の主体性

1 都市経営試論 森本 三男

2 都市経営論と自治 田村 明

3 シンポジウム・横浜過密化とのたたかい
第一部公害と環境 鈴木 武夫・仲井 富

助川 信彦・猿田 勝美
田村 明・船橋 成幸

第二部開発規制と緑の保全
片田 卓夫・長久保美昌

第三部六大事業

猪狩 剣正・反町 良雄
田村 明・広瀬 良一
浅田 孝・宮腰 繁樹
立神 孝・杉山 隆初
小林 弘親・岡理 裕
田村 明・小沢 恵一
高橋 正宏
板谷 雄二
江成 藤吉
土屋 晃朔
滝沢 東彦

4 法律の運用における自治体の主体性
5 情報管理における自治体の主体性
6 自治体職員の主体性
7 「私見」横浜市政の自立度をみる
行政研究
自治体における企画調整部門の変遷と現状―その
調査資料 北小路 清・仲田 五郎
企画調整室の誕生まで―横浜市の企画調整部門の
変遷 青木 虹二
アメリカ・イギリスと横浜の市民参加 矢部 勝彦

義務教育人口推計の一つの試み 舟田鴉津子
民間アパートの居住者をめぐって―神奈川県区神之
木周辺の調査から 中川久美子
その一 民間アパート居住者の生活歴と生活
感情 齊藤 淳一
その二 中高年民間アパート居住者とその背
景 齊藤 淳一

新書紹介
日本の地方自治へ辻 清明著
読書案内
企画と調整 青木 虹二
市政日誌
昭和五十一年二月―昭和五十一年四月
読者のページ
『調査季報』四九号（区民生活と行政の対応）を
読んで

住民要求を受ける現場から 石森 良介
新しい住民要求ルートの開発 大野 紀雄
区職員と本局指向 長谷川 直・越智 二郎
木佐森雅道・安部 光次
川口 光徳・田中 康嗣

調査季報（一五〇号）総目次・執筆者名索引

五一号（一九七六年（昭和五十一年）九月）
特集 都市のなかの川

1 都市化と河川 加藤 迪
2 水害と住民 雨宮 紋一
3 都市河川管理の課題 岩崎 一夫
4 都市河川の現状と問題点 後藤八州雄
5 河川の水質汚濁の問題 神長 重夫
6 水と農業都市における農業用水の現状と問題点 宮沢 哲也

行政研究
鶴見川流域歩行記 仲田 五郎
残土問題発生背景と諸問題 武田 篤夫
石油タンクの安全対策―横浜市屋外石油タンク安
全性研究会報告 佐野 秀哉

読書案内
川をめぐる文献 青木 虹二
新書紹介
都市の中の川（ロイ・マン著／相田武文訳） 武宮 秀教
市政日誌
昭和五十一年五月―昭和五十一年七月
読者のページ
市民の実相に迫る努力を 保井 彰
私と『調査季報』 窪田 正介

五二号（一九七六年（昭和五十一年）十二月）
特集 都市と港湾

1 曲り角にきた横浜港 鶴見 俊一・船橋 成一
2 対談―港と市民 柴 幸
3 横浜港湾整備の方向 中野 新井 昂
4 港湾の運営と外貨ふ頭公園 小林 一男・白鳥 正美
5 港湾の財源 富田 功
6 欧米ポート・オーソリティーわが国の港湾行政を
考える 喜多村昌次郎

7 港湾近代化と港湾労働 喜多村昌次郎
8 港湾と都市の融合―都心臨海部の再開発をおし
て 齊藤 正勝
9 「都市と港」の基礎課題 横浜における「都市
と港」をめぐって 北見 俊郎

行政研究
「港横浜」形成のあらまし 石黒 徹

水面利用計画の方向性(上)
宮浦 修司
前原 康博
中園喜一郎・関 太一
安武 啓揮・遠藤 包嗣
金田 孝之

これからの本市財政―転換期といわれる地方財政の中で
小島 雅雄

新書紹介
大都市へU・K・ヒックス著/橋本徹、外訳)
重村 達郎

読書案内
都市と港湾
青木 虹二

市政日誌
昭和五十一年八月―昭和五十一年十月
読者のページ
示唆に富んでいる現地貯留の考え
富樫 健
森田 信英

水のある川

五三号 (一九七七年(昭和五十二年)三月)
特集 横浜の文化と行政

1 都市の文化
山田 宗睦

2 横浜イェスタデイ
青木 虹二

3 文化行政を考える―その現状と横浜市の課題
田口 隆

4 横浜市の文化施設―その整備と運営の課題
蔵屋 時也

5 地域文化の芽
越智 昇

6 地域文化とは何か
長崎源之助

7 地域文庫の活動
茂木瑠璃子

8 いずみ文庫の八年間
簡 集 照子

9 福祉活動
編 集 田中佳世子

10 自主幼児教育
ひまわり幼児教室
ミニコミ
編 集 部

11 伝統文化の保存と再生
岡野 正文

12 文化財の保存と活用
中村 亮雄

13 民俗と民俗文化財
郷土史研究
太田俊二郎

14 瀬谷区の歴史を知る会の活動
小林 忠秋

15 地場産業
洪谷 晴男・赤堀 郁彦

7 芸術・文芸活動
美術
弦田平八郎
音楽
小船幸次郎
演劇
飯田 克衛
文芸
脇坂 茂樹
文学に表われた横浜
立見 政志

行政研究
水面利用計画の方向性(下)
前原 康博
中園喜一郎・関 太一
安武 啓揮・遠藤 包嗣
金田 孝之

新書紹介
地方文化論への試み(塙 作楽著)
横前 丈夫

市政日誌
昭和五十一年十一月―昭和五十二年一月
読者のページ
「都市と港湾」の特集を読んで
田代 透
港のイメージ
中野 輝樹

五四号 (一九七七年(昭和五十二年)六月)
特集 市民の医療と行政

1 座談会・地域医療のあり方をめぐって
安倍 統・阿部 豊
飯島和可子・葛西 健二
熊田 正春・堀井 稔子
中村宇一郎

2 医療・保健の現場から
奥石 浩

3 医療の現場からのレポート
その一 看護婦と病院の医療
中川久美子

4 その二 住民と保健婦
仲田 五郎

5 老人の医療ケアについての試考
野川 久和

6 衛生行政を考える―保健衛生を中心に
大平 三郎

7 都市の医療
西 三郎

8 行政研究
横浜市の医療施設の状況と対策
金児 憲夫

9 国民健康保険の指導理念を求めて
大沢 浩朗

10 国保保険料の賦課をめぐって
藤沢 昭明

11 市民医療の原型について
野川 久和

12 行政資料
医療関係調査から
多根 雄一・編

新書紹介
過疎地帯の文化と狂気(萩野恒一著) 岡村 駿
市政日誌
昭和五十二年二月―昭和五十二年四月
読者のページ
文化と心
中島 守正
計画的都市づくりを
樫尾 正志

五五号 (一九七七年(昭和五十二年)九月)
特集 都市における学校

1 現代都市における学校
緒形 昭義

2 戦後学校設置の経過と展望
内村 厚公

3 人口急増と学校施設の対応―その問題点と展望
寺門 敏雄・中島 晋

4 学校開放と地域の結びつき
北見 孝志

5 地域社会と学校の役割
小林 伸男

6 現地にみる学校開放
土井 幹夫

7 学校建設計画再考序説
行政研究
横濱市教育プランの開発
清田 正男

8 神原 徳夫・杉 千賀子
箭内 昭夫・洪谷 英

9 大田 武・青木 和雄
「広報よこはま」の読み方・読まれ方―広報紙に
対する意識調査についての一考察
手島 裕

10 地方交付税制度の問題点―主として財政力指数を
めぐって
小島 雅雄

11 新書紹介
「知」の探検学(川喜多二郎著)
足立 光生

12 市政日誌
昭和五十二年五月―昭和五十二年七月
読者のページ
特集 医療の現場からの発言
急患室で考える
近森美生子

13 医療とチームプレー
多田 綾子

14 無医地区の訪問
鈴木 雪子

15 医者のはしごと名医
二川 徹

16 保健婦からみた医療
渡部 幸子

五六号 (一九七七年(昭和五十二年)十二月)

特集 低成長下横浜の行財政

- 1 低成長時代の地方財政 和田 八束
- 2 地域経済の確立へ向けて―横浜の都市づくりへの視点 大場 浪男・横山 悠・斉藤 淳一
- 3 横浜市政重点課題の変化と展望 佐藤 孝昭
- 4 住民要求と自治体予算の橋渡し 大川 武
- 5 横浜市商業の特質 衣笠 洋輔

- 行政研究 渡辺 英男
- 公園企業会計への繰出金の考え方 藤田 文一
- 公園の管理と利用・その実態―横浜市近隣・児童公園 大熊 直人・石坂 文一
- 草の根の国際交流―市民的発想への転換 中塚 敏昭

- 読書案内 青木 虹二
- 地方財政に関する文献 青木 虹二
- 新書紹介 わがまち―その財政 青木 虹二
- 市政日誌 昭和五十二年八月―昭和五十二年十月 塚田 洋一
- 読者のページ 昼休みの会話 山本 克世・宮沢 好
- ヤング学の提唱 塚田 洋一
- 市川 孝史

- 五七号 (一九七八年〈昭和五十三年〉三月)
- 特集 地区計画と住民
- 1 わがまち・わが区への関心 編集部
- 2 区における地区カルテづくりの動き 千賀 義二
- 3 総合的な地区資料を 地区計画地区カルテへの発想の背景と期待―住民参加の現場から 大野 紀雄
- 4 調査から地区カルテづくりへ 「中区民の意識と生活」調査研究グループ

- 竹内文雄・安田 仁・内田四郎
- 奥津伸昭・稲垣晴彦・早川和彦
- 田島弘之・御園隆雄・須田俊男
- 木村直人・志賀象二・高柳 実
- 古川邦雄

- 地区カルテ・地区計画の課題 北小路 清
- 地区計画づくりの基礎的条件
- 新しい街づくりの記録―区役所の主体的役割―中

- 3 開港・明治期の横浜資料

華街南門通り 海老名英樹・古川邦雄・高柳実

- ② 地区における基礎情報の収集・公開システムのあり方 松田 泰征
- ③ 土地の確保とコントロール 越山 清澄・梅谷・泰久
- 4 他の都市の地区カルテ・地区計画 塩原 恒文
- ① 市民がつくる政策統計―武蔵野市の地域生活環境指標 宇嶋 武胤
- ② 川崎市の地区カルテ 竹内 礼三
- ③ 地区カルテと地区計画のもつ意義―宇治市の現場で考える 高見沢邦郎
- 5 地区計画をどう理解するか 日端 康雄
- 6 地区計画と市街地整備 意識調査にみる都市施設 長島 熱夫・加藤 雄一

- 旭区の市街地形成過程と宅地指導行政 宅地開発調査グループ
- 山田 隆昭・岩崎 雅則
- 木村 重治・木下 富雄
- 北見 享之・佐野 康彦
- 読書案内 町づくりと住民参加 青木 虹二
- 新書紹介 アーバン・デザインの手法(ヘジヨナサン・バーネット著/六鹿正治訳) 国吉 直行
- 市政日誌 昭和五十二年十一月―昭和五十三年一月 岸 達男
- 読者のページ 苦情処理屋からの脱皮 古屋 武臣
- 科学的な行政を進めるためにデータバンクを

- 五八号 (一九七八年〈昭和五十三年〉六月)
- 特集 都市における資料館
- 1 横浜の資料館像 遠山 茂樹
- 2 座談会・開港資料館と市民運営方法に望む 中村 紀一
- 花井清二良・松信 泰輔
- 山本健次郎・青木 虹二

- 開港・明治期の横浜資料

開港期の横浜内外資料

- ① 明治期横浜の貿易とその資料 石井 孝
- ② 横浜の開港と町づくり 山口 和雄
- 4 日本の文書館と海外資料 田村 明
- 5 外国の文書館と海外資料 青木 虹二
- 6 英米の文書館 米川 伸一
- ① ジャーディン・マセソン商会文書のことども 服部 一馬
- ② 行政研究 藤沢・埼玉両文書館の実情 青木 虹二
- 二つの文書館 藤沢・埼玉両文書館の実情 高木 邦雄
- 横浜市の文書保存管理についていくつかの問題点と改善の方向 藤川 文彦・小森田喜昭
- 加藤 仁美・岡村 駿
- 千装 勝実・能瀬 純子
- 永田 隆・高橋 稔
- 白石 宣夫・杉山 彰
- 杉山 彰
- 福祉の町づくりとその課題 横濱開港資料館設立に関する中間報告 横濱開港資料館設立研究委員会
- 遠山 茂樹・花井清二良
- 石井 孝・今井 清一
- 中村 紀一・村松貞次郎
- 山口 和雄・田村 明
- 西脇 巖・佐藤 安平
- 浦川 常雄・入江 昭明
- 文献紹介 最近のアメリカの都市政治研究の動向(上) 鳴海 正泰
- 新書紹介 現代の公共問題と市民(足立忠夫著) 上野 欣計
- 市政日誌 昭和五十三年二月―昭和五十三年四月 白浜 英一
- 読者のページ 計画と現実との谷間で 大森 正
- 管財雑感

- 五九号 (一九七八年〈昭和五十三年〉九月)

- 開港・明治期の横浜資料

- 開港・明治期の横浜資料

- 開港・明治期の横浜資料

- 開港・明治期の横浜資料

- 開港・明治期の横浜資料

特集 横浜の緑と保存

- 1 都市における緑 小沢 恵一
- 2 防災と都市緑地災害対策における緑とオープンスペースのかかわりあい 川村 俊次
- 3 都市の生態系と緑 川名 優子
- 4 都市農業を考ふる 内山 和年
- 5 緑の保全と創造 片田 卓夫
- 6 都市公園の体系的整備―将来必要な公園を今からどう確保するか 小泉 信三
- 7 西欧都市の緑 福田 隆蔵
- 8 横浜の緑と市民 郷土の生物教材を生かした自然保護教育―浜中学校林経営 鈴木 丈夫・横山賢太郎
- ① 横浜の郷土と緑 石川幾太郎

行政研究
 横浜の緑の現況と市民の意識―第二次緑地環境診断調査から
 断調査から 中林 博志・伊藤 正夫
 〈横浜都市圏〉の地域特性―主成分分析法によるシステム分析手法研究会
 浅沼 孝義・金綱 武志
 分析 北園 明照・小林 俊一
 金丸 義昭・小川 善雄
 讚井 康六・千葉 一郎
 土谷 真澄・手塚 誠

文献紹介

都市行政の改革について―最近のアメリカの都市政治研究の動向(下)
 鳴海 正泰

新書紹介

園芸の時代(塚本洋太郎著)
 清水富一男

市政日誌
 昭和五十三年五月―昭和五十三年七月

読者のページ
 地区域の土地利用計画を
 小熊 勇
 気になること 畑 咏持

六〇号(一九七八年(昭和五十三年)十二月)

特集 横浜の盛り場

- 1 都市に住む人と盛り場 高萩 盾男
- 2 商業からみた横浜の盛り場 小林知一郎
- 3 ハマの盛り場 白神 義夫
- 4 盛り場と街づくり 脇田 園子

5 商店街とまちづくり―ミニ再開発をめぐって

- 6 盛り場であった伊勢佐木町―横浜盛り場小史 前田 寿
- 7 盛り場の文化的コミュニケーション―盛り場文化論 菅野 拓也
- 8 盛り場・比較文化考―アメリカ・オーストラリアで暮らして 杉本 良夫
- 9 わがまち野毛―酒場日記から 多根 雄一

行政研究
 土地区画整理制度と街づくり―新本牧地区開発の意義と街づくりの考え方
 意義と街づくりの考え方 蒲谷 茂・守 英雄
 区におけるひとつの試み―港北区民生活実態調査」に関連して

新書紹介
 都市は未開である マチノロジの周辺領域(展望) 月照彦著
 多根 雄一

市政日誌
 昭和五十三年八月―昭和五十三年十月
 読者のページ
 市史の焦点と資料館 青木 茂夫
 ある日の研修所 西池 伸弥

六一号(一九七九年(昭和五十四年)三月)

特集 地域施設の管理・運営

- 1 望ましい地域施設の運営を求めて 大森 新一
- 2 現状の問題をみる その一「地区センター」 地区センター管理運営の現状と課題 斉藤 忠義
- ① 公立民営の地区センター―その実態と問題点 松田 栄吉
- 3 現状の問題をみる その二「市民の森」 愛護会組織の現状と課題 九鬼 博

② 市民の森を管理して―「上郷市民の森」の管理体験 相良 逸朗・大沢 栄蔵
 本荘 克行・小島 亜夫
 森 不二夫

- 4 現状の問題をみる その三「児童公園」 児童公園の現状と問題点 小島 勝
- ① 児童公園の清掃活動―伊賀山公園愛護会
- ②

③ コミュニティの道路と公園―一人の市民として

- 5 都市公園管理の諸問題と安全性 D・J・ハイバック
- 6 『ガラクタ広場』実験記 山田 栄雄
- 7 まちづくりの核としてのコミュニティ施設―住民参加の展開 宮本 次郎
- 8 参加の展開 奥田 道大

行政研究
 都市施設としての墓園 小沢 琢磨・齊藤 久司
 立花 誠・辻 泰三
 原田 陽一・牧野 和敏
 中国の都市計画・建設―北京・上海両市を例にして 重村 達郎
 広報活動の現状と広報物登録制度 山口 寿明

新書紹介
 都市デモクラシー(内田 満著)
 横山 悠

市政日誌
 昭和五十三年十一月―昭和五十四年一月
 読者のページ
 公害の除去と産業の育成―「ポリュート・スコップ」を読んで 本間 昭夫
 書かれたもの一人歩き 木下 大輔

六二号(一九七九年(昭和五十四年)六月)

特集 都市と子ども

- 1 地域と子どもの生活 深谷 昌志
- 2 都市と遊び場 大村 慶一
- 3 子どもの体力と健康―ほんとうに体力はなくなつたのか 片尾 周造・村岡 俊夫
- 4 障害児教育のこれから 倉持 義和
- 5 横浜市における子どもの塾通いの実態調査 勤
- 6 豊かさの中の貧しさ―非行問題を追って 齊藤 茂男

7 家庭文化のあり方を考える 高橋 敷
 幼児の環境をめぐるレポート―自主保育の活動から 中川久美子
 座談会：遊び空間を考える 大村 璋子・中川 富三
 田井中分四郎・杉原 克子
 西村 英彦

行政資料
 9 座談会：遊び空間を考える 大村 璋子・中川 富三
 田井中分四郎・杉原 克子
 西村 英彦

横浜開港資料館設立の基本的な方向

横浜開港資料館設立研究委員会議

- 遠山 茂樹・花井清二良・石井 孝
- 今井 清一・高谷 道男・徳岡 孝夫
- 中村 紀一・村松貞次郎・山口 和雄
- 寺内 孝・西脇 巖・石井 保彦
- 佐藤 安平・小林 正和・入江 昭明

新書紹介

街並みの美学（菅原義信著）

小松崎 隆

市政日誌

昭和五十四年二月～昭和五十四年四月

- 読者のページ
- コミュニティ行政の問題点について 楠原 和雄
- あらまほしい「川」 富永 修

六三号（一九七九年（昭和五十四年）九月）

特集 横浜の地下

- 1 都市にとつての地下—その利用のあり方 川上 秀光
- 2 地盤と地震災害 中台 寿・森 一紀
- 3 地盤沈下の現状と対策 亀山 建一
- 4 地下街と安全性 木下 真男
- 5 地下鉄における地下利用と諸対策 五十嵐武利
- 6 地下の土木工事—桜木町五重交差工事の計画と施工 白居 守・一沢 恒夫
- 7 地下埋設物の施工と管理 立神 孝
- 8 道路行政と地下埋設物 松野 完二
- 9 下水道 中村紀久雄
- 10 水道 藤瀬 紘二
- 11 ガス 高橋 健一・谷田部義夫
- 12 電力 齊藤 博文・千葉 昭男
- 13 電話 牛山 弘和
- 14 共同溝 斎藤 勇
- 15 地下埋設物台帳の整備と活用 奈良場 篤

行政研究

都市を流れる川—その考え方 石井 ちず子

新書紹介

集団意思決定プロセスへのアプローチ—広域行政における費用負担をケース・スタディとして 渡辺 健

浪費の時代を越えて—ローマクラブ第四レポート

（D・G・U・K共著／鈴木胖訳）北蘭 義広

- 市政日誌 昭和五十四年五月～昭和五十四年七月
- 読者のページ
- 都市環境下の子ども遊び 滝沢 輝雄
- 「自由を子どもに」の難しさ 佐々木光枝

六四号（一九七九年（昭和五十四年）十二月）

特集 市民の食料と食生活

- 1 わが国の食料事情 内山 和男
- 2 現代日本人の食生活 成田 功
- 3 市民のたべもの—中央市場にみる食料の流れ 久保田禎男
- 4 食生活と健康—子どもを中心に 笠原 久弥
- 5 食品添加物を考える 鈴木 ヤエ
- 6 牛肉の流通と牛の飼育・販売 竹井二三子
- 7 横浜市の産直 須藤 健三
- 8 味・ざつくばらん 黄 雄一
- 9 食料をめぐる消費者活動 多根 成一
- 行政研究 細谷 延
- 大型店進出問題と都市産業政策 横濱市土地利用現況の総合的把握と活用—横濱市土地利用現況調査から 反町 良雄・伊藤 勲
- 横濱市と東京都市圏の交通—第二回パソン・トリップ調査から 木下 久昭

新書紹介

日本産業の課題—公害問題の考え方（村田富二郎著） 森 清和

市政日誌

昭和五十四年八月～昭和五十四年十月

- 読者のページ
- 食の環境 渡辺 陽子
- 公務員批判に思うこと 山田 雅道

六五号（一九八〇年（昭和五十五年）三月）

巻頭言

国際化時代と横浜 田村 明

特集 横浜の国際性

山極 晃

2 国際都市「横浜」をどのように受けつづるか

- 3 自治体経済交流の手法と展望 外岡 勲
- 4 街づくりと国際性 小沢 恵一・内藤 惇之
- 5 行政の国際性
- ① 一職員として国際性ということを考える 佐々木寛志
- ② 開発途上国にみた国際的都市ナイロビ 牧田 修俊

6 市民の国際交流活動

- ① 「国際交流を考える市民の会」の活動 横瀬 多喜
- ② 「横浜国際交流ボランティアの会（YKV）」の活動 小山八千代
- 7 横浜在住外国人の市民生活 加藤 勝彦
- 8 戦後横浜海外交流史 東海林静男

8 戦後横浜海外交流史

都市科学研究室 前田 寿

新書紹介

ソフト・エネルギー・パス（エイモリー・ロビンズ著／室田泰弘・槌屋治紀訳） 富永 修

市政日誌

昭和五十四年十一月～昭和五十五年一月

- 読者のページ
- 調査季報を見ながら考える 内海 鉄弥
- 週刊誌から調査季報へ 飛山 芳興

六六号（一九八〇年（昭和五十五年）六月）

巻頭言

現代都市と歩行者空間 田村 明

特集 歩行者空間

- 1 人・道・町—歩行者空間を考える 望月 照彦
- 2 歩行者空間とまちづくり 西脇 敏夫
- 3 横浜市の道路網整備と歩行者空間 金近 忠彦
- 4 横浜市における歩行者専用道路の現状三浦 良
- 5 歩行者空間の整備計画と課題—港北ニュータウンにみる 遠藤 包嗣
- 6 社会的弱者からみた歩行者空間 杉山 彰
- 7 都心部の歩行者空間 安藤 健二

行政資料

歩行者空間の整備―他都市の事例

歩道研究プロジェクト・チーム

金近忠彦・川上大三郎・坪田寿典

中村俊輔・三浦 良・内藤惇之

宇野勝視・長瀬 護

行政研究

市民の提案による「二十一世紀への横浜の街づくり」

石毛 良夫・小松崎 隆

これからの住宅政策

芳賀 宏江

新書紹介

都市ローマ人はどのように都市をつくったか

〈デビッド・マコーレイ著／西川幸治訳〉

市政日誌

昭和五十五年二月―昭和五十五年四月

読者のページ

宅地開発要綱の改訂に思う

齊藤 恒樹

只今、地区カルテ作成中

川人 政憲

六七号 (一九八〇年〈昭和五十五年〉九月)

巻頭言

健康・児玉さんのこと

田村 明

特集 市民と健康

1 健康とは何か―その考え方と対応策 六戸 昌夫

2 横浜市民の健康と生活環境をめぐって―健やかに暮らせる二十一世紀を招くために 助川 信彦

3 健康を考える―保健婦としての経験を通して 蕪木 秀枝

4 栄養からみた横浜市民の健康 田沼 順子

5 子ども(児童・生徒)の健康 荒井 正巳

6 公害と市民の健康 鈴木 祥

7 地域ぐるみのスポーツ活動 大正スポーツ村構想の試み―生活のスポーツ化をめざして 齊藤 忠義

8 環境に耐える体力づくり―港北保健所における健康活動 笠原 久弥

行政研究

スウェーデンの老人福祉

松村 祐子

歩行者空間ネットワーク構想について―横浜の都

心部関内関外地区にみる

新書紹介

住宅政策の提言〈下山瑛二・水本 浩・早川和小男・和田八束編著〉

宮脇 克己

市政日誌

昭和五十五年五月―昭和五十五年七月

読者のページ

コレラ騒ぎに思う

村田 章

窓口業務に携わって

中路 聡

巻頭言

老人問題を考えるにあたって

田村 明

特集 老人問題と福祉行政

1 老人・家族・地域 阿部 志郎・岸川 洋治

2 座談会・ねたきり老人と福祉行政のあり方―現場からの報告 大谷 茂・小俣 弘昭

3 老人福祉行政の進展とその課題 野川 久和・野山 修・松村 祐子

4 世代間福祉の建設へ向けて―断絶の十字路に架け橋の建設を目指す 山本 文子・若林 勉子・中川 久美子

5 婦人問題としての老後 齊藤 史郎

6 福祉の限界福祉雑感 加藤 吉和

行政研究 都市科学研究室

老人の受療パターン 野川 久和

公的医療保険の法構造・試論 大山 浩朗

都市政策と社会指標 システム分析研究会

高田 昭雄・千葉 一郎

星野 伸明・北園 義広

金網 武志・渡辺 健

新書紹介

環境計画論〈田村 明著〉

新しい街路のデザイン〈デザイン委員会・イギリ

宮崎 正孝

ス都市計画協会共編〉

宮崎 正孝

市政日誌

昭和五十五年八月―昭和五十五年十月

読者のページ

『スウェーデンの老人福祉』を読んで

「役人になってしまつ」こと

巻頭言

大島千恵子

原 賢

六九号 (一九八一年〈昭和五十六年〉三月)

市民自治進展のために

田村 明

特集 都市の自治

1 都市自治の現況と展望 内田 満

2 自治体の役割と市民の自治 田村 明

3 市民の自治活動

団地の自治会活動―竹山団地 小勝 睦美・森田 吉実

② 住民による学校跡地の運営―千秀青少年センター 塩原 寛孝

③ モデル商店街づくり―洪福寺松原商店街 加藤 義夫

④ 住民主体の建築協定づくり 金子 喜芳

④ 都市の自治をめぐる自治体行政の動向 岡本 徳彌

行政研究 檜 貢

地区計画制度の概要と検討課題 岸田比呂志・高橋 和也

地区カルテの作成過程と今後の課題―緑区の事例 緑区地区カルテ研究会

越智二郎・川俣浩一・木佐森雅道

齊藤恒樹・当山真太郎・深見啓司

丸山由利子・山懸稔生・渡辺敏裕

千賀義二

横浜市周辺市街地の面的整備について

後山 晃・齊藤 卓

新書紹介

都市政策の視点〈川上秀光編著〉

内田 絃司

市政日誌

昭和五十五年十一月―昭和五十六年一月

読者のページ

道路管理情報の図形処理

大森 敬

公園の適正な配置を

高橋 一男

七〇号 (一九八一年〈昭和五十六年〉六月)

特集 都市住宅問題をめぐって

調査季報99・100 - 89.1

1 住宅問題への視点 山崎 巖
日本の住宅政策の方向—ヨーロッパの住宅政策と比較して 篠塚 昭次
2 横浜市の住宅事情と今後の展望 宮脇 勇喜・芳賀 宏江
3 居住環境悪化の現状と問題点 藤田 武
4 居住環境整備の方向 尾辻 静昭
5 市街地住宅のあり方 武宮 秀教
6 持家集合住宅建替の方策 玉田 弘毅
7 行政研究
区の魅力ある街づくり—その考え方と実践に向けて 椎谷 南郎・霜崎 賢一・田口 俊夫
津久井輝司・小林 昭吾・河合 克夫
内藤 恒平
地区センター利用の現状と課題—戸塚・本郷地区センター利用者調査から 都市問題を考える会
大貫 一幸・五島 哲男・大徳 努
細川 政宏
都市問題研究会
遠藤 博・小沢 朗・北内 陽子
徳田 文男・橋田 徹
婦人問題を考えるにあたっての視点
婦人問題自主研修グループ労働グループ
上野 智子・塚本 素子・土井良多江子
芳賀 宏江・本間 重子・平島 操子
水沢 靖子・村田 京子
新書紹介
都市と交通（岡 並木著） 北沢 猛
市政日誌
昭和五十六年二月—昭和五十六年四月
読者のページ
「環境図集」の活用を 小林 茂雄
役所とチームプレー 長谷川 直

① 七一号（一九八一年（昭和五十六年）九月）
1 地域を教育する—重度身体障害者授産施設・泉会
「日の出舎」から 山田しげお
2 地域を教育する—日の出舎夜間小学校から

1 障害者・地域社会そして行政 久保田武男
2 心身障害児とその家族—地域社会での生活設計を求めて 谷口 政隆
3 市民の中の障害者福祉 松田 米生
4 座談会／障害者・者の生活を考える 岩屋 芳夫・岸本 孝男・中村 豊久
成田すみれ・室津 滋樹・加藤 勝彦
5 ともに生きる人々 名古屋 修・対馬 保雄
6 開かれた施設づくり—特別養護老人ホーム・芙蓉苑 伊藤 直幸・小川美紀雄
鈴木 恭子
7 生きる権利を求めて 壁にむかってにらめこしていました—寿識字学校からの報告 大沢 敏郎
8 在日韓国・朝鮮人／その民族と人権—信愛塾の中から 李 博
9 「共生の時代」を支える協力機関 横濱のボランティアの現状と課題—横濱市ボランティアセンター 小嶋 正夫
10 「与え／与えられる関係」から「共に生きる関係」へ— 村田 和夫
行政研究
主婦と社会教育とボランティア
婦人問題自主研究会 福祉・教育グループ
角田あや子・高須淑子・小島由美子
大渊律子・斎藤由美子
新書紹介
社会福祉政策（R・M・ティトマス著）／三友雅夫
監訳 中川久美子
市政日誌
昭和五十六年五月—昭和五十六年七月
読者のページ
八・八、三浦にて 藤田 富夫
仕事を通して思うこと 杉野由美子

① 七二号（一九八一年（昭和五十六年）十二月）
1 婦人の生きかたと行政の課題 山手 茂

1 婦人と労働 長友智恵子
2 低賃金を支える意識構造の継承性 井戸 和男
3 女子社員の能力開発と活用—西武百貨店の場合
4 これからの女性の老後年金をめぐる諸問題 網代 毅
5 田附ゆきえ
6 婦人相談員からみた婦人問題 長井 京子
7 婦人の地域活動 山口 汎子
8 育児期における主婦の社会参加 山口 和子
9 乳幼児家庭センターの活動 節・佐藤 定子
10 学童保育とともに 青木 節・佐藤 定子
11 共働き家庭における育児—良い親子関係を考える 繁多 進
12 横濱市婦人の現状と動向 田宮 敦子
13 行政研究
市役所女子職員の意識調査—「みなと」一一〇号 アンケートから 多根 雄一
金田 孝之
新書紹介
食糧と農業を考える（大島 清著） 加藤 勝彦
市政日誌
昭和五十六年八月—昭和五十六年十月
読者のページ
横濱市内の池の調査 石井ちず子
公共施設の名称について 大野 敏美

① 七三号（一九八二年（昭和五十七年）三月）
1 アジアの都市と横浜 川瀬 博
2 国際交流研究グループ
3 アジアの都市と横浜 石川 孝樹・加藤 勝彦・川崎 圭子
中村豊仁朗・長谷川 隆・前田 清隆
牧野 孝男・石原 郁子・稲垣 晴彦
4 横濱の中のアジア 紀田順一郎
5 市民作文にみる「アジア認識」 岸 敏明
6 フィリピンで暮らして—青年海外協力隊の体験

① アジアの都市の考察視点 田辺 裕
② アジアの都市—アジアの都市から何を学ぶか 長島 孝一

4 アジアの都市の現状
① バンコク・クアントイ・スラム—私のボランティア活動 岩崎美佐子
② 都市住居（スクオッター・スラム）と居住政策 岡 利実

③ アジア都市の交通問題 太田 勝敏
④ 第三世界における都市のはざま 飯島 茂
⑤ 東南アジアの都市をどう見るか 矢野 暢

6 アジアの中の日本—横浜を考える
① タイで過ごした幼児期—エックへの手紙（市民の作文その一） 藤本 典子
② わたしの中の地図・日本と東洋と（市民の作文その二） 沢 宇実

③ アジアと私—ビルマと私の三十年（市民の作文その三） 土橋 泰子
④ 都市レベルの国際交流—国連アジア・太平洋都市会議の開催にあたって 岡部 重之

⑤ アジアと日本 岩崎 駿介
行政研究
編集者が語る『広報紙』、『広報よこはま』についての調査「プロジェク

新書紹介
日本のサラリーマン—国際比較でみる（千石保編著） 富永 修
市政日誌 昭和五十六年十一月—昭和五十七年一月

読者のページ
これからの道路 金子 隆一
二十一世紀の地形図づくり 渡辺 佳持

七四号（一九八二年（昭和五十七年）六月）
特集 横浜と農業
1 「明るい農村」から見た日本の農業と農村 中山 亮一

2 都市と共に生きる農業—都市農業の意義と可能性 井一 光義
3 農業基盤の確立をめざして—農業専用地区設定事業の今後の在り方私案 中村 博美

4 横浜農業の現状と課題 大島千恵子
① 都市農業に社会的価値を 編 集 部
② 横浜を歩く 小川亥三郎
③ 反骨の条件—農協の現状と課題 矢沢 定則

5 後継者はいないのか
6 農業と都市の連帯 小泉 信三・岡部 晴雄
7 公園と農地の共存—舞岡・野庭にみる

① 「市民農園」による都市づくり 前川 慎
② 契約栽培を通じた結びつき 椎名 公三
③ 行政研究 北沢 猛

新書紹介
都市デザインと市民の意識 北沢 猛
自治体の情報公開（今橋盛勝・高奇昇三編著） 中山 正己

市政日誌 昭和五十七年二月—昭和五十七年四月
読者のページ
まちについて思うこと 吉岡 俊雄
クルマと商業 鈴木 志良

七五号（一九八二年（昭和五十七年）九月）
特集 横浜と工業
1 大都市における工業市街地の現況と課題 小林 重敬

2 横浜における産業の現況と課題 中村 實
3 横浜における工場立地規制と住工混在 藤吉 貢
4 横浜の中小工業の今日 碓井 貢
5 金沢工業団地工場移転の経過とその課題 山田 稔・大谷 高久・高橋 道夫

6 山田 稔・大谷 高久・高橋 道夫
7 吉田 正博・稲村 守彦 鈴木 祥
8 横浜の工業と公害対策 鈴木 祥

9 工業の新しい動き
10 研究開発型機能の存立条件—京浜工業地帯の役割 片岡純一郎
11 ベンチャー型中堅企業 内山 康

12 これからの横浜を担う都市型成長工業 渡辺 巧教

行政研究
地域的データ管理のシステム化—道路管理データの把握を例として（上） 大森 敬
コミュニティ道路試論—人と自動車の共存をめざして 三浦 良

新書紹介
韓国人の心（李御寧（イー・オリョン）著） 藁口 加藤 勝彦
市政日誌 昭和五十七年五月—昭和五十七年七月

読者のページ
広報を考える 住吉 国男
行政情報の取扱いに思う 重森 裕

七六号（一九八二年（昭和五十七年）十二月）
特集 都市と水環境
1 水辺再生の論理—「都市自然」としての都市の川 森 清和

2 河川環境回復の道—水害被災者の立場で保護を考える 品田 穰
3 川と技術と住民—川の固有名詞を取り戻すために 宮村 忠

4 座談会—水環境と下水—河川行政 鈴木 重之・中村 芳之
5 横浜の河川環境を考える 武藤 高・高井 芳
6 水辺と市民—区の魅力づくりとしての水辺空間整備 吉村 伸一

7 備 田口 俊夫
① 横浜と海 森 誠一郎
② 都心部の水際線—みなどみらい21にみる港と海と街 島中潤一郎

行政研究
① 魚の生息環境と富栄養化問題 唐沢 栄
② ビルタンク水にみる飲料水としての安全性 金子 延康

③ 都市環境の変化に対応する予算システムの展望 大森 敬
④ 地域的データ管理のシステム化—道路管理データの把握を例として（下） 松岡 恒司

⑤ 水紀行（玉城 哲著） 松岡 恒司

市政日誌

昭和五十七年八月〜昭和五十七年十月

読者のページ

「冬の時代」

五十嵐文雄
アムステルダム市の老人給食サービスを見て
根上三千代

七七号 (一九八三年〈昭和五十八年〉三月)

特集 職員自主研究

1 私のテーマと仕事(ヘインタビュ) 岩崎 駿介

2 「考える研修」を目指して―職員研修の現状と今後の方向 河野 勉

3 自主研究の体験から
応募グループ運営の難しさ 魚谷 憲治

新井 貴・齊藤 恒樹・小山 正剛
丸山由利子・金子 延康・伊藤 勇

地区センター調査の五年間 北内 陽子

福祉現場での自主研究 田中 文夫

4 行政現場における研究への期待 星野 信也

行政研究
区におけるまちづくりと地区カルテ
区におけるまちづくりと地区カルテ研究グループ

古畑 正孝・高柳 実
五島 哲男・田口 俊夫

区役所における地区カルテづくり―「港北地区カルテ(一九八一)」の場合 川人 政憲

ミニ開発の現状と対策 ミニ開発問題研究会

尾辻 静昭・吉田 一弘・成田 松夫・大竹 浩次

重樹・庄司 敏雄・水田 寛義・酒井 浩次
横浜都心部の課題と都心型住宅(序論)―住居容積率規制をめぐる 都心問題研究会

森住 清志・浜野 四郎・酒井 純

美術館のあり方―行政問題自主研究の報告から

赤堀 郁彦・越智 二郎・酒井 純・土屋 幹男・堤 彰・鳥越 春枝・早川 悦子・宮島 宏

現代社会と博物館―現代社会における博物館の理念と機能に関して 佐藤 三夫

よこはまのホタル―こども自然公園環境調査を中心に

市政日誌

昭和五十七年十一月〜昭和五十八年一月

読者のページ

文書管理に思うこと
都市の生活について

阿久津 卓・石井ちず子・川瀬 博
森 清和・一見 典正・清水富二男
ハンブルク州出資企業群とその特色―行政間接執行方式としての意義 前田 寿

七八号 (一九八三年〈昭和五十八年〉六月)

特集 市政情報の整備と利用

1 市民による地域情報づくり 千賀 義二

2 市民の手による環境マップづくり 村田 和夫

3 行政情報システム化の試み 清水 征夫・松井 正幸

4 土地情報システム 小雀 貴司・高橋 良夫・長岡 英昭

5 行政情報の現状と課題 石黒 徹・鶴嶋富士男・堀内 宏幸

6 文書情報の現状と課題 伊藤 秀明・永田 隆・橋本 敏幸・高嶋 信

7 統計情報の現況と課題 板谷 雄二

8 地図情報のシステム化―「市政の地域情報システム調査」から 北小路 清

9 情報公開と市政情報の整備 伊澤 典男

10 開かれた行政を目指して―市民・自治体と行政情報 矢澤 澄子

行政研究
横浜「市民」の海外交流 海外交流研究グループ

石川 孝樹・加藤 勝彦・川崎 圭子
佐藤 則義・瀧澤 啓子・中村豊仁朗
長谷川 隆・前田 清隆・牧野 孝男
森 泰章

新書紹介
事実からの発想(柳田邦男著) 北小路 清

市政日誌

昭和五十八年二月〜昭和五十八年四月

読者のページ

退職金騒動に思うこと
電算化を見つめる視点

鳥田 彰男
山口 茂文

七九号 (一九八三年〈昭和五十八年〉十月)

特集 横浜市政と行政

1 地方財政の現状と課題 林 正寿

2 対談・横浜市政と施策の展望 岸本 重陳

3 横浜市政の現状―大都市の財政状況と横浜市政 森 義人・入江 昭明

4 横浜市の税収構造 川股 隆

5 公営企業財政の現状と健全化 尾沢 詳憲

6 行政研究 田中 修

鶴見区における住民異動状況 鶴見区人口異動問題研究会

柏田 龍夫・小川 乃久・鳥田 定治
滝口 哲也・田邊美千信・松浦みゆき
知念 稔・花園 勝

新書紹介
エクセレント・カンパニー(ヘT・J・ピーター・ス・R・H・ウォータマン著/大前研一訳) 吉川 玄一

市政日誌
昭和五十八年五月〜昭和五十八年七月

読者のページ
市民対応に思う
最近思うこと

杉山 嘉彦
中林 淳子

八〇号 (一九八四年〈昭和五十九年〉二月)

特集 高齢社会の課題

1 高齢者のフルに生きるまちづくり 佐々木一郎

2 長寿社会のライフ・スタイル 直井 道子

3 高齡化社会を生きる 野田 久一

4 停年後の人生と家族 森 知子

5 地域活動から看護婦への道 西谷 雅子

6 父母の看取りと私 二木 立

これからの保健・医療

読者のページ

最近思うこと
在日外国人と国民年金

吉良 寛
真野 保久

八二号 (一九八四年 (昭和五十九年) 九月)

特集 緑保存の方策

1 「都市自然」保全の論理と方法 進士五十八
2 都市自然をどう守るか
岸 達男・手塚 隆晴・森 清和
3 斜面緑地のもつ問題と課題
小澤 恵一・片田 卓夫・中沢 利幸
4 緑地保存の可能性と課題
河合 正嗣・北村 正明・矢加部正子
5 港北の自然環境を考える
原田 敏樹・加藤真知子・浅見 昭雄
6 市民の緑保存の活動
「会下谷の林」から何を学ぶか 行武 経夫
なせ赤田か―身近な自然を守るには 萬羽 敏郎
②③ 谷戸文化ふたたび―「まいおか水と緑の会」の活動から
動から 十文字 修
7 宅地開発と緑の保存 大門 洋文
8 イギリスの環境保全活動―ナショナル・トラスト
研修ツアーから 門脇 蓉子
9 「木を植える文化」と都市生活 (インタビュー)
富山 和子

行政研究

横浜の源流域―その実態と保全について 佐藤 寛行
村・町・行政区域―区域の実態を求めて 兼松仁礼夫・出雲路秀昭

新書紹介

地球レポート 緑と人間の危機 (ヘリツク・P・エックホルム著 / 石弘之・水野憲一訳) 榎 康則

市政日誌

昭和五十九年二月―昭和五十九年四月
読者のページ
「自然」とつきあう 角 妙子
市民の意見を 蓮尾 浩

八三号 (一九八四年 (昭和五十九年) 十一月)

特集 横浜と商業

1 都市と商業―コミュニティ・マーケット時代の商業環境
横浜における商業の現状と課題 宇壽山武夫
2 横浜商業の振興について 新井 幸貴
3 多品少量生産下の小売構造の変化 鈴木 一孝
4 横浜市の商店街振興施策 菅原 一孝
5 細谷 延・松江 節子・佐藤 雅彦
本多 俊雄・茅野 純一・佐藤 和雄
6 再開発事業と商業 地曳 良夫
7 横浜の商店街の現状と課題 (インタビュー) 金井 国男
あけぼの通り商店街 (神奈川区) 高野 豊
②③ 六角橋商店街 (港南区) 五十嵐周作
④ 弘明寺商店街 (南区) 宮田 光夫・保坂 民雄・山川 孝一
⑤ 元町商店街 (中区) 近沢 弘明

行政研究

港北ニュータウンの景観計画 中村 俊輔・竹内 正二・庄司 敏雄

新書紹介

ネットワークキング (J・リップナック・J・スタンプス著 / 社会開発統計研究所訳) 藤又 衛

市政日誌

昭和五十九年五月―昭和五十九年七月
読者のページ
「共有」のはじまり 打越 和子
三好 弘人

八四号 (一九八五年 (昭和六十年) 二月)

特集 福祉と民間活力

1 福祉社会の基礎的構造 久場 嬉子
2 私の体験を社会へ 渡辺 孝子
3 これからの福祉行政―横浜市在宅福祉サービス協会構想を素材として 杉山 彰
4 老人と地域社会―活力ある福祉社会を目指して 中村 和雄
5 高齢者の経験と能力を生かすために 岩澤 幹夫
6 福祉における最近の事例と民間活力 山田瑠璃子
7 市民の公共的活動と行政―支援研究チームの報告

5 社会福祉の新しい展開 高橋 敏士
6 自治体における高齢化社会対策 岡村 駿
行政研究 山田 泰夫・塚田 洋一
都市環境と彫刻 渡辺 友孝
新書紹介 よこはまの橋・人・風土 (小寺 篤著)

市政日誌

昭和五十八年八月―昭和五十八年十月
読者のページ
自治体の中心と周縁 山口 順子
行政の視点 安楽岡信夫

八十一号 (一九八四年 (昭和五十九年) 三月)

特集 市民・地域・行政
1 座談会・市民・地域・行政―地域連帯に向けた地域、行政の課題
東 哉江・相良 光・森山 梢
佐藤 尚武・大徳 努・山本 一郎
加藤 勝彦
2 地域と学校―千秀小学校からの報告 長井 梢
3 西区の医療事情―保健・医療ネットワークづくりを目指して 佐分利保雄
4 地域福祉の現状とこれから―補助金と経費負担から考える 水野 伍平
5 父親家庭教育学級へのとりくみ―川崎市営生ごども文化センター 針山 直幸
6 いま、区民会議は―最近の区民会議の活動について 岡本 孝夫・戸口 和夫

行政研究

婦人保護事業とは何か―その過去・現在・未来へ向かって 婦人母子問題研究会
有元 和子・石橋 明子・荻野かつ子
小泉 美枝・河野由利子・鈴木 栄子
武井かおる・武田 玲子・田附ゆきえ
土井良多江子・安田 雅

新書紹介

神奈川の韓国・朝鮮人 (神奈川県自治総合研究センター編) 藤田 讓治

市政日誌

昭和五十八年十一月―昭和五十九年一月

から
行政研究 金子 延康

大分・一村一品運動の実態
まちづくり研究会地域経済グループ

荒 伸直・石垣 克己・飯島 悦郎
遠藤 博・金子 武志・木村 敬三
花園 勝・南 学・山田 孝一
矢守 晶子

公立文化施設の事業統計の意義と標準化—文化会館・市民会館などの文化ホールを主体として

新井 国徳

新書紹介
ポスト・サービス社会へバリー・ジョーンズ著

市政日誌
昭和五十九年八月—昭和五十九年十月

読者のページ
花も実もある中年人生 安藤 克己
「名刺考」 根本 久

八五号 (一九八五年〈昭和六十年〉三月)

特集 区行政—あり方と個性ある地域づくりの試み

1 座談会—これからの区行政

細郷 道一・宮永 啓子・根上三千代
島田 靖之・原田 敏樹・二木 健二

2 行政区再編成の過程と課題 五月女哲夫・二木 健夫

住民からみた戸塚区分区問題

戸塚A区の問題点と今後の課題 松田 栄吉
戸塚B区の編成と今後の課題 石原 昌信

4 地域の主体性と区行政
大野 達雄・古川 邦雄・矢部 純枝

5 行政区の活性化に向けて
大野 達雄・村田 和義 原田 敏樹

6 区における技術部門のあり方
区建築課の現状と課題 新野 裕秀
まちづくりと区建築課—港南区の実践例から 田口 俊夫

7 地域づくりと区社会教育 榎間 早穂

8 港北区の区政懇話会—商工業問題を中心として 加藤真知子

10 9 保土ヶ谷区のコミュニティ研究 塩野 孝志
金沢区アメニティ・タウン計画 村井 淳
社会教育事業との出会い—そこからドラマが生まれた 三井 一代

12 個人情報処理とプライバシー保護 綾部 一明
参考資料
区行政のあり方を考えるために

新書紹介
経済活力の源泉—日米欧ベンチャー比較—清成忠男著

市政日誌
昭和五十九年十一月—昭和六十年一月

読者のページ
分衆の時代と行政 齊藤由美子
言葉の重み 中田 裕之

八六号 (一九八五年〈昭和六十年〉十月)

特集 都市とイベント 大久保昌一

1 自治体とイベント
2 イベントと行政—都市の魅力と活力の創造のために

3 都市活性化のための来街者誘引政策 産形 靖彦
「内なる願い」をイベントに—I・Y・Yのイベント 大場 浪男

4 戦略 村上 宏征

5 新しい都市づくりとイベント(試論)・みなとみらい21 吉田 昌文

6 区民総ぐるみの金沢まつりをめざして 金子 博

7 横浜のスポーツイベント 渡部 正次
曲がり角にきた本牧ジャズ祭 渡辺 光次

8 捨てたもんじゃない横浜の川—かわを考える会のドブ川イベント 白龍 敏弘

9 ヨコハマ映画祭—映画ファンのための熱いまつり 鈴村たけし

10 行政研究
地域行政とアジア都市 田口 俊夫

新書紹介
タウン・ウォッチング(博報堂生活総合研究所) 鈴木 志良

市政日誌
昭和六十年二月—昭和六十年四月

読者のページ
税務職員にもっと研修を 鷲巢 研二
自己啓発 重野 敏子

八七号 (一九八五年〈昭和六十年〉十二月)

特集 横浜の産業政策—企業誘致活動を中心に

1 大都市における産業政策のあり方 中島 清
2 企業からみた横浜市の産業政策 飯田 正明

3 国の産業配置政策と自治体の企業誘致 飯田 正明
五島 哲男・金子 延康

4 横浜経済の現状と産業振興 古明地和郎
5 横浜市における企業誘致活動の実態 水橋 篤佐

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫
みなとみらい21の企業誘致活動 港北ニュータウンの企業誘致 丸山 幸成・千々岩 稔

③ 白山ハイテクパーク—中間報告 吉田 正博
④ 郊外地域の整備と産業配置 小島 徹夫

⑤ 企業誘致と都市づくり—求められる施策の総合化 前田 寿

新書紹介
苦悩する都市再開発—大阪駅前ビルから—大久保昌一・角橋徹也編著

市政日誌
昭和六十年五月—昭和六十年七月 窪田 正介

読者のページ
ヨコハマに水族館を 伊藤 勇
読まず嫌い 鎌田美恵子

八八号 (一九八六年〈昭和六十一年〉二月)

特集 市民と図書館

1 戦後の公共図書館の歩みと現在 久保 輝巳
2 市民主権の公共図書館のために 木村 隆美

3 図書館活動の多様性—個性ある図書館を求めて 川添 猛

① ② ③ ④
新しい図書館—古い図書館—小田原市立図書館の立場から 川添 猛

② 日野市立図書館—「市民の図書館」の原点はいま 齊藤 隆夫

③ 調布市立図書館—市民文化活動の拠点に 黒沢 克朗

④ 県立川崎図書館—高度情報化社会にむけて 立川 晃二

- 4 大都市における図書館の現状
名古屋市における図書館施策の現状と課題
山本 進
- 5 東京の図書館—その光と陰
清水 隆
- 6 横浜の図書館の現状と課題
坪野 忠
- 7 港北図書館の活動—行事・集会活動を中心に
佃 一可・長谷川節子
杉浦 弘美・新谷 迪子
- 8 横浜の図書館類似施設
青少年図書館の現場から—西区青少年図書館の活動
小宮 裕子
- 9 市民図書室
文庫数全国一の蔭に—横浜の文庫の現状と課題
林 英子
- 10 横浜の文庫—それぞれ文庫の多様性
汐見台文庫の活動
鈴木 陽子
- 11 私たちの文庫「こどものへや」
大多良文庫
有江 則子
- 12 横浜市民の図書館づくり運動
関 千枝子
- 新書紹介
図書館の街・浦安(新任館長奮戦記)へ竹内紀吉著
田中 公夫
- 市政日誌
昭和六十年八月—昭和六十年十月
読者のページ
図書館との出会い
情報と図書館
狩野 彰一
山中 明彦
- 八九号 (一九八六年(昭和六十一年)三月)
特集 国際化時代の市民と行政
1 国際化時代に生きる
飯島 茂
2 自治体と国際交流—とくに姉妹都市との関係について
幸島 禮吉
3 市民と行政に期待される役割—気になる「オンパレード」
松沢 雄一
4 横浜の国際性への提言—コトバと国際交流
中村 哲夫
5 市民の意見と活動
山手の丘から—私のヨコハマと横浜
G・オクハラ
6 ホーム・ステイ活動—我が家の国際交流

- 3 横浜J.C.の国際交流活動
佐藤 敦子
- 4 国際親善と慈善活動
宝田 良一
- 5 市民運動としての難民救援活動
石川歌奈子
- 6 横浜市民の国際交流活動
本橋 栄
- 7 国際文化都市横浜をめざして
八木沢直治
- 8 国際理解教育・研修
川口 昇・高柳 実
- 9 二十一世紀を担う子供たち
大久保洋子
- 10 市職員の海外派遣研修
矢加部正子
- 11 ア 姉妹都市サンディエゴ市での研修
職員研修所
- 12 イ 研修制度の概要
鶴見区の国際交流—韓国・朝鮮の文化に親しむ集い
長塚 久・柏田 龍夫
- 13 Y O K E の活動
鈴木 一博・真野 保久
- 14 横浜市の国際交流—姉妹都市交流事業を中心として
伊藤 克己・田中 兆洋
山崎 隆弘
- 15 行政資料
姉妹友好都市交流記録
国際 課
- 16 市政日誌
昭和六十年十一月—昭和六十一年一月
読者のページ
ユア・タックス・アト・ワーク
いじめ問題に思う
秋山 郁夫
田中 仁司
- 九〇号 (一九八六年(昭和六十一年)九月)
特集 まちの活力と行政
1 「まち1986」ダイジェスト
地域社会研究会 作業部会
村田 和義・加藤 勝彦
2 座談会・地域から学ぶ—地域社会研究会を終えて
渡辺 光次・塩野 孝志・村田 和義
松井 正幸・大徳 努・加藤 勝彦
3 「まち1986」を読んで
「女性パワーを忘れないで」
松井 佑子
「文化」で自治会の活性化を
池下 高志
「まち1986」を読んで
木下 好夫
「まち86」を読んで
石崎 和彦
魅力ある「西谷」に
川崎登美子

- 6 我が町・希望が丘が本になった。嬉しくなって読みました
中山 文子
- 7 今、行政に求められているもの
曾根 純雄
- 8 千秀地区に住んで思うこと
小本三枝子
- 9 仕事を通して考える
魚本一司
- 10 別所町友会PART 2
塩野 孝志
- 11 港南台ウォッチングPART 2
村田 和義
- 12 西谷町は今:
松井 正幸
- 13 その後の千秀地区
大徳 努
- 14 新書紹介
路上観察学入門(赤瀬川原平・藤森照信・南伸坊編)
吉仲 一也
- 15 市政日誌
昭和六十一年二月—昭和六十一年四月
読者のページ
科学的選択を
中山 博邦
横浜の都心部
齊藤 昭夫
- 九一号 (一九八六年(昭和六十一年)十一月)
特集 家族機能と自治体行政
1 家族問題と自治体—行政家族問題研究会から見てきたこと(ヘインタビュー)
平野 敏政
- 2 家族問題研究会の概要
家族問題研究会 老人部会
平野 敏政・鎌田 宣子・野川 久和
五井百合子・松田 正敏・岩崎 晴子
山本 文子・北小路 清・中川久美子
家族問題研究会 子供部会
平野 敏政・鎌田 宣子・阿部 カツ
神山 満子・菊池 汎子・田中 宏明
山本 文子・吉田 常美・仲田 豊久
生江 恒彦・中川久美子
- 3 相談活動と連携個別適応力の醸成へ向けて
老人相談と老人ケア—病院・保健所・福祉事務所の連携の中で
山本 文子・丹野 利子・岩崎 晴子
保健室における相談活動と他機関との連携
下田 久子・川島 令子
児童相談所の役割と課題
山口おかる
地域へ向かう—点から面へ
菊池 汎子
子供の養育と社会教育の課題

- ② 母親のネットワーク作りへ向けて―乳幼児学級の活動とその課題 角口 秀子
- ③ 母子保健の新たな展開―子供の発達保障と育児力の形成のために 神山 満子
- ④ ポケ相談から地域へ 家族を支える・補う 高野 静子
- ⑤ 在宅福祉サービスの新たな展開―ホームヘルプ協会の活動を中心に 鎌田 宣子
- ⑥ 緩衝機能を持つ施設―在宅福祉を高める 野川 久和・松田 正敏
- ⑦ 多様な保育ニーズと保育行政についての一考察 鈴木 隆

新書紹介 地域福祉の思想と実践(阿部志郎編) 宮永 啓子

市政日誌 昭和六十一年五月―昭和六十一年七月

読者のページ 専門主婦たち 「民間派遣研修」 雑感 塩川 紀子

九二号 (一九八七年(昭和六十二年)一月)

特集 横浜の公共交通

- 1 大都市における公共交通 古池 弘隆
- 2 横浜の交通機能の現状と課題 榎 幸雄
- 3 民営鉄道の経営と課題 今城 光英
- 4 市営高速鉄道の課題 公田 重夫・相原 幸雄・関 善一郎

- 5 横浜の公共交通システム 中川 博之・和田 博
- 6 横浜の民営バス―東京急行バス部門における新しい試みを中心に 寺坂伊佐夫
- 7 横浜市営バスの現状 土屋 俊男
- 8 横浜市総合交通体系の確立にむけて 横瀬 貞男・藤田 格・小林 正幸

新書紹介 明治の宮廷画家五姓田義松(神奈川県立博物館編)

小樽運河戦争始末(小笠原 克著) 岡部 昌幸

市政日誌 昭和六十一年八月―昭和六十一年十月

読者のページ

- 区民要望と行政 家事と頭脳 渡辺 悟一 山田 裕子

九三号 (一九八七年(昭和六十二年)三月)

特集 地域情報―行政情報―横浜の広報力を考える

- 1 市民同士の情報交流と行政の役割 岩田 昭丈
- 2 地域の情報交流を進めるために 丸山 尚
- 3 地域の情報交流―地域情報紙の活動から 飯田 重夫
- ① 満十年を迎えた地域紙「はまかせ」 若尾 忠政
- ② 地域新聞と住民とのかわり 私たちの考える情報ネットワーク―地区センターの情報コーナーを拠点にして 三宅喜代子
- 5 広聴・広報の今日的対応―PRの資源はどこに 砂川 忠雄・戸口 和夫
- 6 総合PR戦略への誘い 岡本 孝夫・中俣 正之
- 7 NTTの総合広報戦略 河村 俊之・小沢 朗

新書紹介 リハビリの友へ(柴田哲夫・友愛との会) 平塚 由美

市政日誌 昭和六十一年十一月―昭和六十二年一月

九四号 (一九八七年(昭和六十二年)六月)

特集 博物館を考える

- 1 現代博物館考 伊藤 寿朗
- 2 横浜の博物館の活動 鈴木 正雄
- ① 科学と親しむ―横浜こども科学館 阿部 征寛
- ② 横浜開港資料館 金沢 英樹
- ③ 横浜人形の家 今井 康博
- ④ 横浜市三殿台考古館 横田 洋一

新書紹介 町野学芸員―その生活と意見 浜口 哲一

市政日誌 昭和六十一年十一月―昭和六十二年一月

読者のページ 広報紙は恐ろしい 津久井栄之

第三世代の動物園像をめざして―博物館としての動物園 大坂 豊

読者のページ

- 7 市民感覚で博物館を 廣川 千枝

九五号 (一九八七年(昭和六十二年)九月)

特集 子どもとまち―遊び・自然・まちづくり

- 1 座談会―子どもとまち―遊び・自然・まちづくり び・自然・まちづくり大村 慶一・加藤 彰彦
- 2 子どもの目とまちへの関心 村橋 克彦・森 清和
- ① 鶴見川子ども発見団活動報告 久保田正男
- ② 地域に広がる学習の場―幸ヶ谷小学校総合活動 中里 和正・宮武 三郎
- 3 まちと公園 ワークショップ方式の公園づくり―かに山公園の例から 奥村 玄・田中 弘子・宮沢 好
- ② 私たちのコミュニティー・パーク作り 山口健太郎
- ① 子どもとまちづくり ざかもとゆきお
- ① 子どもフルに伸びるまちづくり―上大岡日曜子ども会からの報告 篠崎 正明
- ② 新興団地の中の子育て―根ざそう会とこれからのまちづくり 松丸 明子
- 5 みんなで創ろう子ども環境プラン2001―中間報告 グループ大きな木

新書紹介 ペナン市との技術交流―第一回―アーバンデザインプランの提案 西脇 敏夫

市政日誌 昭和六十二年五月―昭和六十二年七月

読者のページ 漂流―芹沢俊介家族論集(芹沢俊介著) 篠原 一郎

読者のページ

読者のページ

読者のページ
芹谷川のひまわり
高橋 正幸

九六号 (一九八七年(昭和六十二年)十二月)
特集 都市とごみーごみとの共存をめざして
生活の変化・ごみの変遷
石澤 清史

1 横浜のごみーこれまでの流れ
小泉富太郎
2 横浜のごみー現状と課題
太田 次郎
3 事業活動とごみ
三田 修
4 都市とごみー全国の取り組み
山本 耕平
5 米国の廃棄物情勢ー都市ごみ処理事情と家庭系有害廃棄物問題に対する取り組み
池口 孝
6 ゴミ問題の行き着く先
藤田 祐幸
7 新書紹介
ガボロジーとエントロピー
江成 卓史

市政日誌
昭和六十二年八月ー昭和六十二年十月
読者のページ
ごみ処理一筋一四年
大島 邦雄

九七号 (一九八八年(昭和六十二年)三月)
特集 まちの特徴づくりー歴史、文化とのかかわりのなかで
1 まちづくり運動の構図と射撃
西村 幸夫
2 地域の歴史と市民の活動
「瀬谷区の歴史を知る会」を想う
岩崎 肇
3 いま宿場が、おもしろい
齊藤 恒樹
4 横浜の歴史的、文化的資産を生かす
「保存」をまちづくりから考えるー馬車道・日本
北沢 猛
5 火災ビルの保全活用計画
大倉山記念館の保存と活用
齊藤 文人
6 川とまちづくり
吉村 伸一
7 横浜ふるさと村
本荘 克行・人見 江一
善家 幾雄・森 能文

既存の環境資源をできるかぎり生かす、港北ニュータウンの基本的計画立案のスタンス
川手 昭二
4 特色あるまちづくりの育成ー横浜まちづくり功勞者表彰制度
渡辺 一彦
5 歴史的環境の保存と再生の系譜
木原 啓吉
行政研究

洋館、古民家の保全に助成「歴史を生かしたまちづくり要綱」のあらまし
小沢 朗
新書紹介
カフカの迷宮ー悪夢の方法
杉山 爾
市政日誌
昭和六十二年十一月ー昭和六十三年一月
読者のページ
白書づくり奮闘中
寺岡 洋志

九八号 (一九八八年(昭和六十二年)六月)
特集 みなとー現状と新しい動き
1 横浜のみなとー「ウォーターフロント探検」から学ぶこと
藤原 恵洋
2 みなとの新しい動き
横浜のソフト文化の可能性ーヨコハマ・フラッシュをとおして考える
野田 邦弘
3 京浜工業地帯の変化
矢野 滋彦・飯田 隆・稲村 守彦
4 新浦島ハイテクビル(仮称)建設事業について
若林 和彦
5 金沢木材港のマリーナ計画
中島 実雄・田野口博臣
6 八景島の整備について
松井 良平・北田 治
7 みなと色彩計画
堀内 晴彦・松島 宏充

3 市民と港ーその、かわり合いの構造的性
北見 俊郎
行政研究
市管理立て事始めー「子安・生麦地先」埋立て(恵比寿・宝・大黒町)と、「本牧・根岸地先」(根岸湾臨海工業地帯)の計画から具体化への変遷
田中 常義
行政資料
横浜港港湾計画の改訂について
港湾局企画課
新書紹介
三溪 原富太郎
市政日誌
昭和六十三年二月ー昭和六十三年四月
読者のページ
貸付・督促・滞納整理
内藤 恵子

調査季報一〇〇を迎えて
梅崎 初夫・遠藤 包嗣・大森 敬・大山 浩朗
小沢 恵一・小沢 朗・岡村 駿・川人 政憲
北園 義広・河野 勉・齋藤 恒樹・佐久間健生
杉山 彰・砂川 忠雄・大徳 努・高井 芳
高橋 敏美・高柳 実・田口 俊夫・田中 昭一
反町 良雄・富永 修・内藤 惇之・野川 久和
芳賀 宏江・原田 敏樹・春田 閉典・広瀬 良一
前田 清隆・宮腰 繁樹・宮永 啓子・横山 悠
若竹 馨

市政日誌
昭和六十三年五月ー昭和六十三年十月
調査季報(一〇〇号)総目次・執筆者名索引

1 座談会・横浜学を考える
佐藤東洋磨・鈴木 加藤
平野 実・中村 大場
2 座談会・横浜の市民
金指真理子・児玉 正臣
樋口 勇・中西 昭雄
3 座談会・都市横浜を語る
小林 弘親・菅 大倉
林 英傑・森 孝能
義人 義隆

九九・一〇〇号 (一九八九年(平成元年)一月)

調査季報99・100-89.1

執筆名索引

D・J・ハイバック六
G・オクハラ 八九

相原 幸雄 九二
相原 光 一六

青木 虹二 四七
青木 節 四九

青木 和雄 五〇
青木 昭治 五二

青木 昭治 五三
青木 幹一 五五

赤木 幹一 五七
赤木 郁彦 五八

赤木 郁彦 五九
赤木 誠園 六一

秋山 誠園 六二
秋山 郁夫 六三

阿久津 誠園 六四
阿久津 卓 六五

浅川 敏克 六六
浅川 次郎 六七

朝倉 陸雄 六八
朝倉 孝 六九

朝倉 陸雄 七〇
朝倉 孝 七一

飛鳥田 一雄 七二
飛鳥田 昭雄 七三

足立 光生 七四
足立 忠夫 七五

後山 忠夫 七六
後山 晃 七七

阿部 志郎 七八
阿部 征寛 七九

天野 義弘 九四
天野 行雄 九五

雨宮 紋次 九六
雨宮 叙一 九七

綾部 一明 九八
綾部 伸直 九九

荒井 正巳 一〇〇
荒井 由紀子 一〇一

新井 国徳 一〇二
新井 則子 一〇三

有江 則子 一〇四
有元 和子 一〇五

安藤 健二 一〇六
安藤 栄 一〇七

飯島 貞一 一〇八
飯島 可子 一〇九

飯島 可子 一一〇
飯島 重夫 一一一

飯田 重夫 一二二
飯田 正明 一二三

飯田 正明 一二四
飯田 克衛 一二五

井上 光義 一二六
井上 義隆 一二七

五十嵐 周作 一二八
五十嵐 武利 一二九

五十嵐 武利 一三〇
五十嵐 文雄 一三一

池口 孝 一三二
池口 利明 一三三

池田 利明 一三四
池田 一郎 一三五

池田 一郎 一三六
池田 武文 一三七

石井 保彦 一四二
石川 歌奈子 一四三

石川 歌奈子 一四四
石川 幾太郎 一四五

石川 幾太郎 一四六
石川 孝樹 一四七

石川 孝樹 一四八
石川 美枝子 一四九

石垣 重石 一五〇
石垣 克己 一五一

石坂 良夫 一五二
石坂 丈夫 一五三

石田 清史 一五四
石田 和彦 一五五

石田 和彦 一五六
石田 裕子 一五七

石田 裕子 一五八
石田 清史 一五九

石橋 昌信 一六〇
石橋 明子 一六一

石原 昌信 一六二
石原 舜介 一六三

石原 舜介 一六四
石原 幸夫 一六五

石原 幸夫 一六六
石原 郁子 一六七

石原 郁子 一六八
石原 頼房 一六九

石原 頼房 一七〇
石原 清史 一七一

石原 清史 一七二
石原 和彦 一七三

石原 和彦 一七四
石原 裕子 一七五

石井 保彦 一八二
石川 歌奈子 一八三

石川 歌奈子 一八四
石川 幾太郎 一八五

石川 幾太郎 一八六
石川 孝樹 一八七

石川 孝樹 一八八
石川 美枝子 一八九

石垣 重石 一九〇
石垣 克己 一九一

石坂 良夫 一九二
石坂 丈夫 一九三

石田 清史 一九四
石田 和彦 一九五

石田 和彦 一九六
石田 裕子 一九七

石田 裕子 一九八
石田 清史 一九九

石橋 昌信 二〇〇
石橋 明子 二〇一

石原 昌信 二〇二
石原 舜介 二〇三

石原 舜介 二〇四
石原 幸夫 二〇五

石原 幸夫 二〇六
石原 郁子 二〇七

石原 郁子 二〇八
石原 頼房 二〇九

石原 頼房 二一〇
石原 清史 二一一

石原 清史 二一二
石原 和彦 二一三

石原 和彦 二一四
石原 裕子 二一五

伊藤 克己 二二五
伊藤 功雄 二二六

伊藤 功雄 二二七
伊藤 雅章 二二八

伊藤 雅章 二二九
伊藤 豊雄 二三〇

伊藤 豊雄 二三一
伊藤 典正 二三二

伊藤 典正 二三三
伊藤 幸平 二三四

伊藤 幸平 二三五
伊藤 哲也 二三六

伊藤 哲也 二三七
伊藤 恒夫 二三八

伊藤 恒夫 二三九
伊藤 孝史 二四〇

伊藤 孝史 二四一
伊藤 光男 二四二

伊藤 光男 二四三
伊藤 秀昭 二四四

伊藤 秀昭 二四五
伊藤 貞雄 二四六

伊藤 貞雄 二四七
伊藤 金吾 二四八

伊藤 金吾 二四九
伊藤 良介 二五〇

伊藤 良介 二五一
伊藤 友治 二五二

伊藤 友治 二五三
伊藤 明子 二五四

伊藤 明子 二五五
伊藤 昌信 二五六

伊藤 昌信 二五七
伊藤 舜介 二五八

岩間 忠雄 二六五
岩間 昭彦 二六六

岩間 昭彦 二六七
岩間 芳夫 二六八

岩間 芳夫 二六九
岩間 照丈 二七〇

岩間 照丈 二七一
岩間 幸基 二七二

岩間 幸基 二七三
岩間 幹夫 二七四

岩間 幹夫 二七五
岩間 美佐子 二七六

岩間 美佐子 二七七
岩間 晴子 二七八

岩間 晴子 二七九
岩間 駿介 二八〇

岩間 駿介 二八一
岩間 重男 二八二

岩間 重男 二八三
岩間 雅則 二八四

岩間 雅則 二八五
岩間 一夫 二八六

岩間 一夫 二八七
岩間 恒 二八八

岩間 恒 二八九
岩間 光英 二九〇

岩間 光英 二九一
岩間 洗夫 二九二

岩間 洗夫 二九三
岩間 清一 二九四

岩間 清一 二九五
岩間 康博 二九六

岩間 康博 二九七
岩間 正 二九八

岩本 正夫 三〇五
岩本 英雄 三〇六

岩本 英雄 三〇七
岩本 欣計 三〇八

岩本 欣計 三〇九
岩本 智子 三一〇

岩本 智子 三一〇
岩本 慶富 三一〇

岩本 慶富 三一〇
岩本 憲治 三一〇

岩本 憲治 三一〇
岩本 昭一 三一〇

岩本 昭一 三一〇
岩本 昭三 三一〇

岩本 昭三 三一〇
岩本 昭守 三一〇

岩本 昭守 三一〇
岩本 昭貢 三一〇

岩本 昭貢 三一〇
岩本 昭和 三一〇

岩本 昭和 三一〇
岩本 昭武 三一〇

岩本 昭武 三一〇
岩本 昭子 三一〇

岩本 昭子 三一〇
岩本 昭藏 三一〇

岩本 昭藏 三一〇
岩本 昭裕 三一〇

岩本 昭裕 三一〇
岩本 昭夫 三一〇

岩本 昭夫 三一〇
岩本 昭武 三一〇

岩本 昭武 三一〇
岩本 昭淑 三一〇

江成 藤吉 三五〇
江成 名英樹 三五〇

江成 名英樹 三五〇
江成 義理 三五〇

江成 義理 三五〇
江成 輝雄 三五〇

江成 輝雄 三五〇
江成 幸男 三五〇

江成 幸男 三五〇
江成 實 三五〇

江成 實 三五〇
江成 湘吉 三五〇

江成 湘吉 三五〇
江成 博 三五〇

江成 博 三五〇
江成 富三 三五〇

江成 富三 三五〇
江成 包嗣 三五〇

江成 包嗣 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 藤吉 三五〇
江成 名英樹 三五〇

江成 名英樹 三五〇
江成 義理 三五〇

江成 義理 三五〇
江成 輝雄 三五〇

江成 輝雄 三五〇
江成 幸男 三五〇

江成 幸男 三五〇
江成 實 三五〇

江成 實 三五〇
江成 湘吉 三五〇

江成 湘吉 三五〇
江成 博 三五〇

江成 博 三五〇
江成 富三 三五〇

江成 富三 三五〇
江成 包嗣 三五〇

江成 包嗣 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

江成 遠藤 三五〇
江成 遠藤 三五〇

大野 紀雄 三五〇
大野 一幸 三五〇

大野 一幸 三五〇
大野 美智子 三五〇

大野 美智子 三五〇
大野 高久 三五〇

大野 高久 三五〇
大野 重樹 三五〇

大野 重樹 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 勝敏 三五〇

大野 勝敏 三五〇
大野 次郎 三五〇

大野 次郎 三五〇
大野 俊二 三五〇

大野 俊二 三五〇
大野 邦雄 三五〇

大野 邦雄 三五〇
大野 千恵子 三五〇

大野 千恵子 三五〇
大野 壽一 三五〇

大野 壽一 三五〇
大野 敏郎 三五〇

大野 敏郎 三五〇
大野 浩 三五〇

大野 浩 三五〇
大野 榮藏 三五〇

大野 榮藏 三五〇
大野 平八郎 三五〇

大野 平八郎 三五〇
大野 郁雄 三五〇

大野 郁雄 三五〇
大野 直人 三五〇

大野 直人 三五〇
大野 保昌 三五〇

大野 保昌 三五〇
大野 節裕 三五〇

大野 節裕 三五〇
大野 秀夫 三五〇

大野 秀夫 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 武 三五〇

大野 武 三五〇
大野 武 三五〇

岡本 孝坦	岡本 好右		岡村 晴雄	岡部 昌幸	岡部 重之	岡野 正文	岡堂 哲雄	小勝 睦美	岡田 優子	岡田 裕	岡田 利実	岡田 並木	岡田 勤	大山 浩朗	大森 正	大森 新一	大森 敬	大森 薰	大村 虔一	大村 璋子	大堀 末雄	大堀 律子	大平 恭子	大庭 浪男	大場 正典	大野 敏美	大野 達雄		
八一、 三九三	一〇〇 三八		三〇、 七四	三三、 九二	三三、 四六	三三、 五三	三三、 四六	三三、 六九	三三、 六六	三三、 五〇	三三、 七三	三三、 六二	三三、 六二	六八、 一〇〇	四八、 五四	三五、 五八	七六、 一〇〇	六九、 二五	六二、 二五	六二、 二九	六二、 二九	六二、 二九	六二、 二九	六二、 二九	六二、 二九	六二、 二九	六二、 二九	六二、 二九	
角本 良平	加賀谷 正彦	小原 弘明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	小幡 忠明	
一四	三六	六八	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	
金子 延康	金山 彰	金沢 明照	金指 英樹	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	金指 真理子	
八四、 七七	七六、 七八	一〇〇 九四	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	一〇〇 八三	
川口 弘	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二	川口 謙二
一六	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
北内 陽子	岸本 重陳	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男	岸本 孝男
七七、 七三	四八、 七九	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一	四三、 七一
久保田 武男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男	久保田 禎男
七一	三四	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九

副田 義也	添田 清二郎	善家 幾雄	仙田 満	芹沢 英治	関谷 善太郎	関 千枝子	関 音三	諏訪部 周	住吉 国男	角 妙子	砂川 忠雄	須藤 健三	須田 俊男	須田 幸隆	鈴木 和男	鈴木 陽子	鈴木 武夫	鈴木 哲男	鈴木 忠義	鈴木 正雄	鈴木 丈夫	鈴木 重祥	鈴木 志良	鈴木 幸生	鈴木 恭子	鈴木 栄子	鈴木 一博	鈴木 綾子									
一〇、 四三五	一〇、 四三五	二、 九七六	二、 九七六	五二、 九二五	五二、 九二五	五二、 九二五	五二、 九二五	九三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八	四三、 四〇八								
高橋 和也	高橋 良夫	高橋 稔	高橋 敏美	高橋 道夫	高橋 正幸	高橋 正宏	高橋 尚平	高橋 重雄	高橋 四郎	高橋 紘士	高橋 孝二	高橋 健一	高橋 輝一郎	高萩 一男	高野 盾男	高野 豊	高野 年弘	高野 静夫	高野 邦夫	高田 昭雄	高谷 道男	高瀬 定雄	高須 淑子	高嶋 信	高嶋 みち	高木 邦雄	高木 鉦作	高木 淳子	高家 淳子	高井 芳	田井 中分四郎	曾根 純雄	小林 大作				
四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七	四八、 一〇七		
田附 ゆきえ	立見 誠	立花 雪子	多田 京二	田添 弘之	田島 公位	田代 善雄	田代 昌史	田代 元弥	田代 幹夫	竹山 恒寿	竹村 雅道	武宮 玲教	武田 秀教	武田 篤夫	武田 英治	竹島 卯三郎	竹内 礼三	竹内 文雄	竹内 正雄	武井 かおる	竹井 三子	田口 隆	田口 俊夫	田口 三枝子	瀧沢 啓子	瀧沢 東彦	瀧沢 輝雄	宝田 哲也	高柳 良一	高柳 孝行	高見 沢邦郎	高見 玄一郎					
七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一	七二、 八一		
田村 明	田宮 敦元	玉田 弘毅	田野 博臣	多根 雄一	谷川 政隆	谷川 弘	田畑 貞寿	田邊 美千信	田邊 昇学	田中 文夫	田中 武	田中 德明	田中 兆洋	田中 正司	田中 常義	田中 祥夫	田中 昭一	田中 俊修	田中 弘子	田中 康嗣	田中 宏明	田中 公夫	立神 孝	立川 晃二	立川 孝	立川 晃二	立川 孝	立川 晃二	立川 孝	立川 晃二	立川 孝	立川 晃二	立川 孝	立川 晃二	立川 孝		
六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	六九、 六八	
鶴岡 晏夫	坪野 忠	坪野 寿典	角田 あや子	網代 毅	堤 彰	筒井 安忠	土谷 真澄	土屋 俊男	土屋 幹男	辻村 明	辻村 泰三	辻村 清三	辻村 保雄	佃 一可	津久井 榮之	津久井 輝司	塚本 素子	塚本 洋一	千葉 松男	千葉 一郎	知念 稔	千々岩 稔	千々岩 勝美	近森 美子	近森 弘明	千賀 義二	大門 洋文	大門 一樹	大徳 努	反町 良雄	丹野 利子						
三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六	三二、 八六
土井 良	土井 幹夫	鳥越 盛男	鳥居 陸八	富山 和子	富永 修	富田 富士雄	富田 日出男	富田 芳功	飛山 芳興	外岡 和夫	戸口 文夫	徳岡 孝夫	徳岡 義治	徳江 末樹	徳植 直一	時田 要一	富樫 健	富樫 健	当山 真太郎	遠山 茂樹	遠山 美知子	東海 林静男	寺坂 伊佐夫	寺岡 敏雄	寺岡 洋志	寺内 孝	手塚 隆晴	手塚 誠	手塚 裕	手島 裕	鶴見 俊一	鶴嶋 富士雄					
八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七	八一、 五七

脇田園子	脇坂茂樹	若林和彦	若林迪子	若尾忠政	若竹(三木)馨	六郷政寛	李力武	李家常次	李孝博	米川伸一	吉川伸一	吉川伸一	吉田正博	吉田常美	吉田昌文	吉田考古	吉田一弘	吉沢高一郎	吉川徳夫	吉岡玄一	吉岡陽子	吉岡俊雄	横山悠	横山賢太郎	横山桂次	横前丈夫	横塚瀬	横田洋一	横瀬多喜	
					警二七、 三二、 四二					七六、 九七	七五、 八七											六一、 一〇〇	四五、 五九	一三、 一五、 四九						
六〇	五三	六八	六八	九〇	四二	二一	四〇	二五	七一	五八	九〇	八七	九一	八六	一一	七七	三四	二五	七九	二五	七四	七〇	五〇	五九	四九	一四	五三	七	九四	六五

和田八束	和田博	和部端男	渡部正次	渡部陽子	渡部友孝	渡部敏裕	渡部精一	渡部俊輔	渡部巧教	渡部孝子	渡部光次	渡部悟一	渡部健持	渡部英彦	渡部一彦	渡部幸子	渡部光雄	渡部研二	鷺巢允	
五六	九二	三七	三五	八六	六四	八〇	六九	一二	二九	七五	八四	九〇	九二	六八	七三	五六	九五	一七	二四	八六